

創価大学看護学部

2016 年度卒業生対象 卒業時到達度調査
報告

1. 看護技術到達度評価
2. 看護実践力到達度評価

2017 年 2 月 13 日 看護学部教務委員会

1.調査の経緯

創価大学看護学部は2017年3月末をもって、設置4年の完成年度を迎える。文部科学省提出の設置申請書には、「3.育成する人材の到達目標とそのアセスメント」の中で、卒業時到達度を測り、教育の質を保証することを掲げている。

本学部設置前から取り組まれてきた卒業時到達度の評価指標の作成を受けて、学部内教務委員会にてその作業が進められてきた。

2015年度（平成27年度）末に提案された看護技術検討委員会作成の看護技術到達度チェックリストを基にした卒業時到達度評価を行なうことが2016年度の教務委員会にて承認され、それを基に教務委員会看護実践力ワーキンググループにて看護技術到達度評価票を作成した。

またそれとは別に、2016年度教務委員会にて看護実践力に関する卒業時到達度調査も必要であることが決定された。そこで、教務委員会看護実践力ワーキンググループが中心となり、各専門分野からの教育目標等について調査を行ない、さらに文部科学省の報告書（平成23年3月11日：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告）「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」および日本看護系大学協議会の報告書（平成24年3月：大学卒業時到達度の評価手法開発のための調査研究報告書）との対応も検討した上で、本学部における看護実践力到達度評価票を作成した。

上記2種の卒業時到達度調査票案が教務委員会審議を経て、教授会承認を得て決定された。

2.調査目的

看護学部卒業前に、看護技術到達度および看護実践力到達度を測り、教育の質保証へむけて、カリキュラム改善の資料とすることを目的とする。

3.調査内容

1) 看護技術到達度評価

自記式の質問紙調査票であり、内容は、技術分類16（環境調整技術、食事援助技術、排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔・衣生活援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・誤薬防止の技術、救命救急処置、フィジカルアセスメント、症状・生体機能管理技術、特殊治療、感染予防技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、死の看とりの技術）と、それぞれに技術項目、さらにその下に技術細目が置かれており、技術細目数は合計290細目である。それぞれの技術細目ごとに、選択肢は4段階評定（4. 単独で実施できる、3. 看護師・教員の指導のもと実施できる、2. 学内演習で実施できる（学内演習）、1. 知識としてわかる（講義のみ））とした。

2) 看護実践力到達度評価

自記式の質問紙調査票であり、内容は、看護実践力5群（Ⅰ ヒューマンケアの基本に関する実践能力、Ⅱ 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力、Ⅲ 特定の健康課題に対応する実践能力、Ⅳ ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力、Ⅴ 専門職者として研鑽し続ける基本能力）と、それぞれを構成する能力、その下に卒業時到達度を問う項目74項目を置いた。それぞれの項目ごとに選択肢4段階評定（4.達成できた（80%以上）、3.まあまあ達成できた（50%以上80%未満）、2.あまり達成できなかった（30%以上50%未満）、1.達成できなかった（30%未満））とした。

4.調査方法

調査は、本学部教務委員会看護実践力ワーキンググループにより、2016年度看護学部卒業予定者75名を対象に、2016年12月14日に集合一斉調査で行なった。調査前に実施要項に沿って、調査目的、回答方法、提出方法および提出先、回収期限、留意点を紙面と口頭で説明した。なお、記名にて回答を求める理由を回答漏れ防止のためであることを明言して、調査への協力を求めた。その後、調査対象者1名当たり調査票1冊およびマークシート用紙4枚を配布した。マークシートの回収は留め置き法にて行なった。マークシートの回収期限は2016年12月19日（月）昼12時とし、看護学部棟1Fラウンジ前の指定されたレポート回収ボックスに回収期限までの提出を求めた。

5.分析方法

看護技術到達度評価および看護実践力到達度評価の各項目に対する選択肢の4段階評定を、4を4点、3を3点、2を2点、1を1点として集計した。

看護技術到達度評価は、技術細目別の各選択肢に対する回答割合を求め、さらに技術分類別および技術細目別の平均値と標準偏差を求めた。看護実践力到達度評価は、項目別の各選択肢に対する回答割合を求め、さらに群別、能力別、項目別の平均値と標準偏差を求めた。

6.調査結果

1) 調査について

調査票配布数 75部 回収数 75部 有効回答数 75部 有効回答率 100%

結果については主に平均値と標準偏差をもとに図表で示し、4段階評定ごとの回答割合については表5、表6において示すこととする。

2) 看護技術到達度評価について

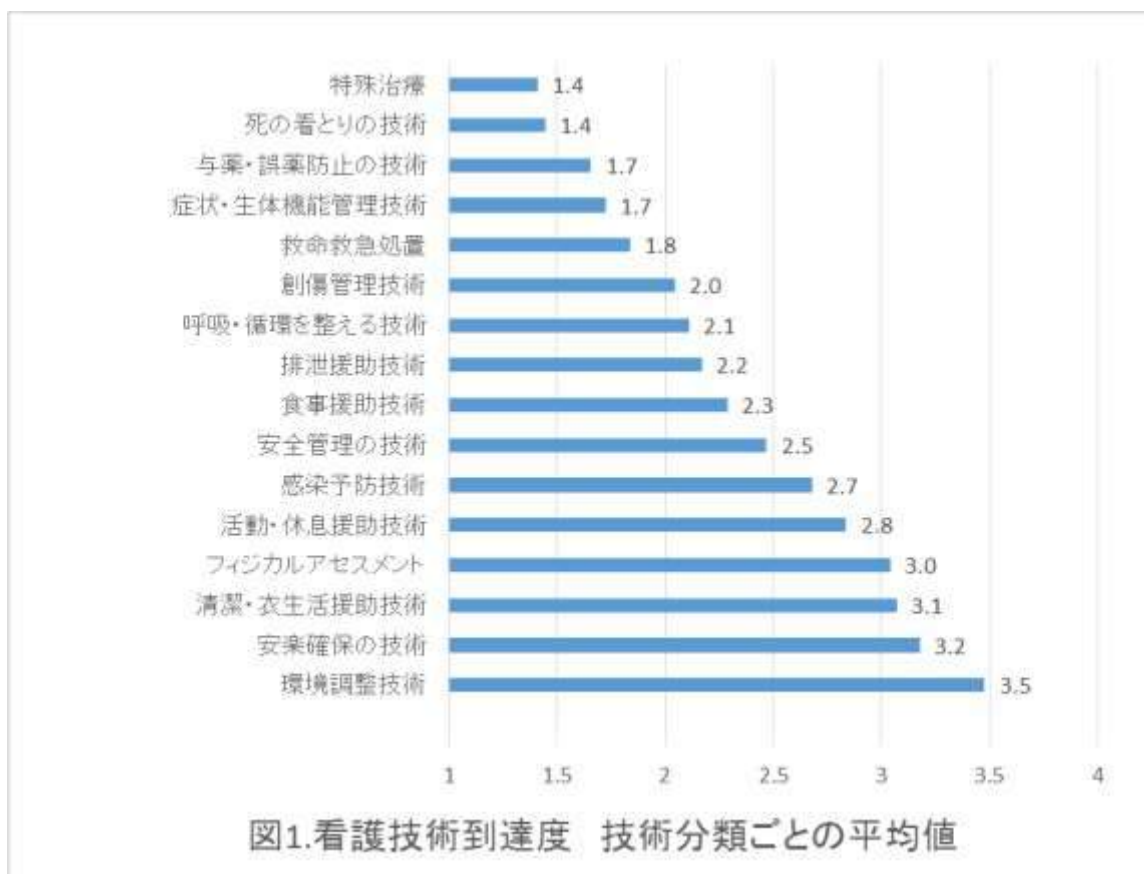
表1.に示すとおり、看護技術到達度評価の平均値は2.3点であり、標準偏差1.14点であった。

平均値	2.3
SD	1.14

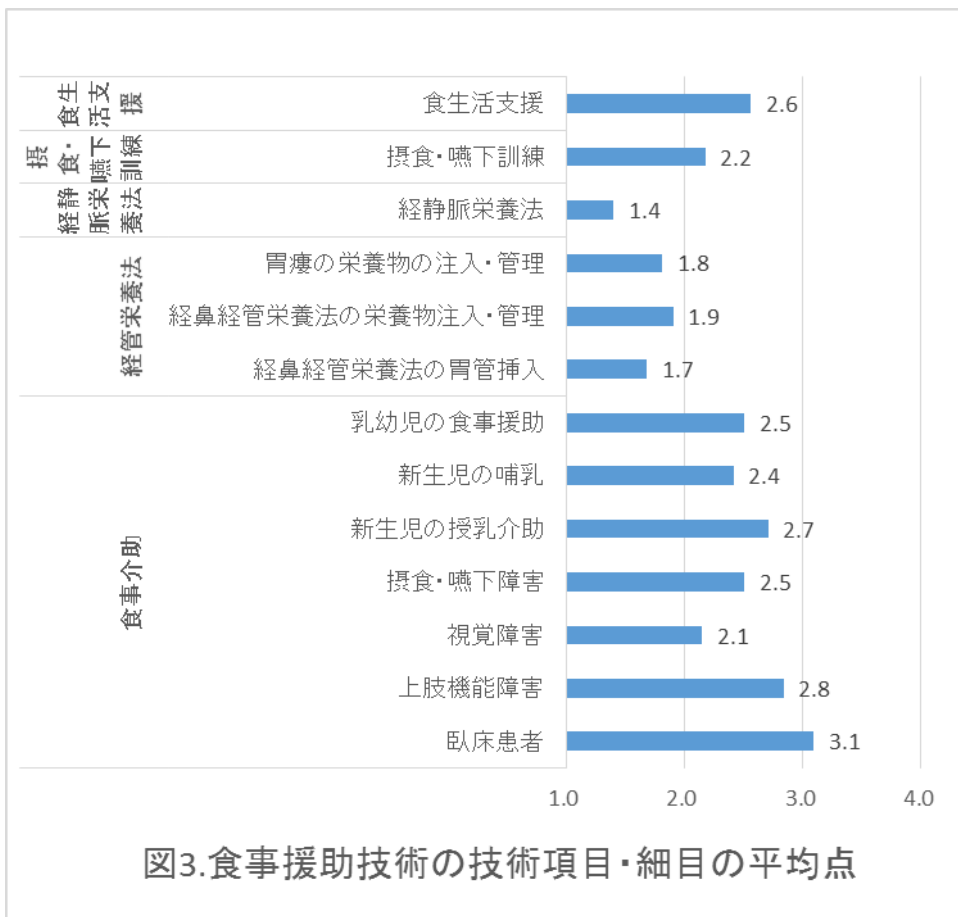
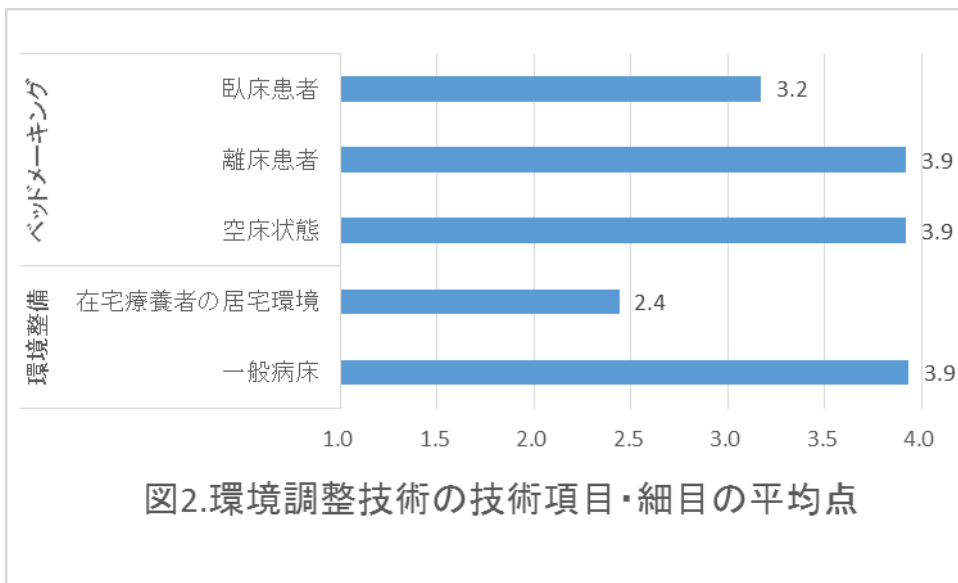
次の表 2.および図 1.に示すとおり、看護技術到達度評価の技術分類ごとの平均値を比較すると、上位から、環境調整技術 3.5±0.85 点、安全確保の技術 3.2±0.90、清潔・衣生活援助技術 3.1±0.93 点、フィジカルアセスメント 3.0±1.02 点であり、一方得点が低い技術分類は、低い順に、特殊治療 1.4±0.81 点、死の看取りの技術 1.4±0.96 点であり、次いで、与薬・誤薬防止の技術 1.7±0.82 点、症状・生体機能管理技術 1.7±0.99 点であった。

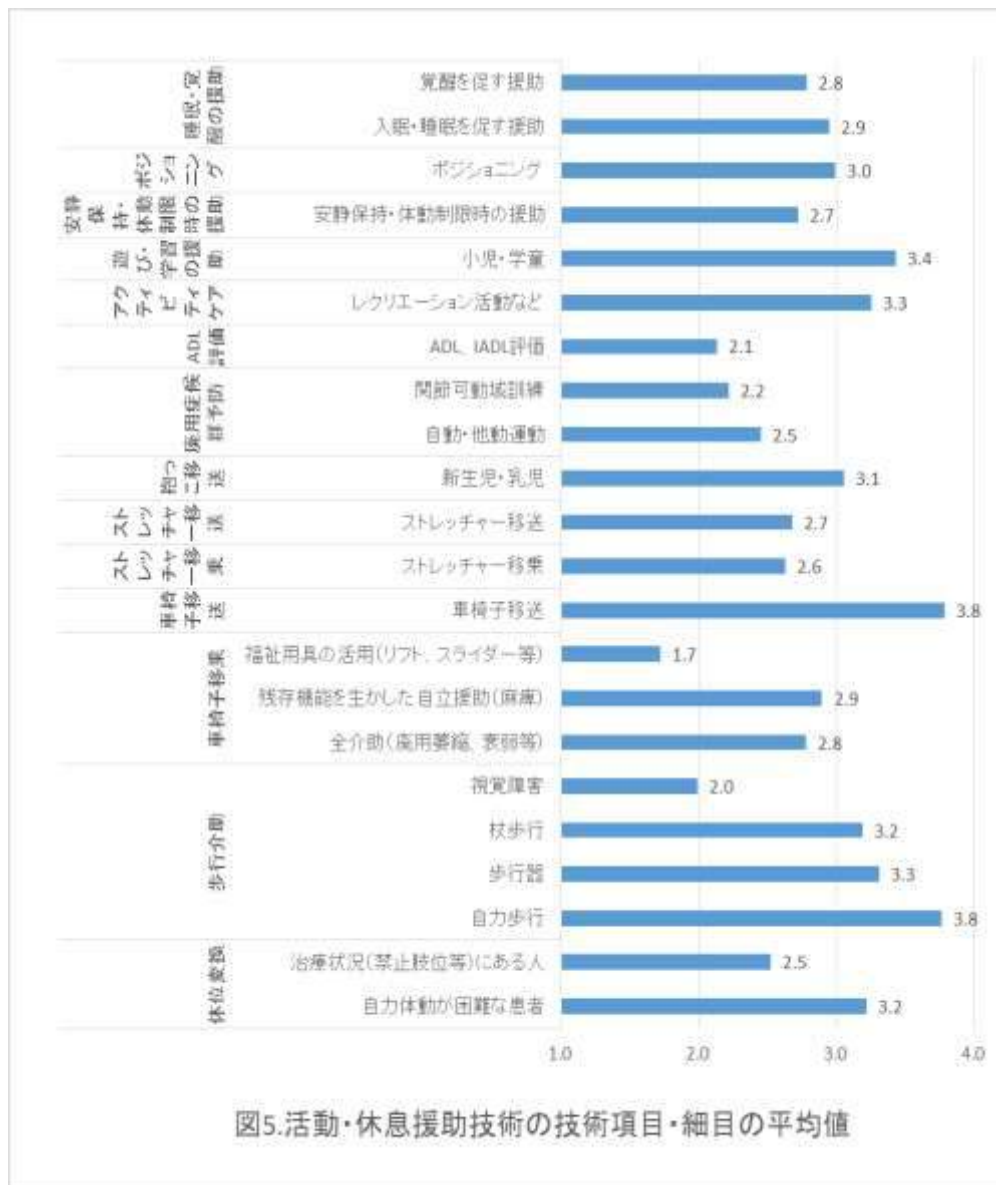
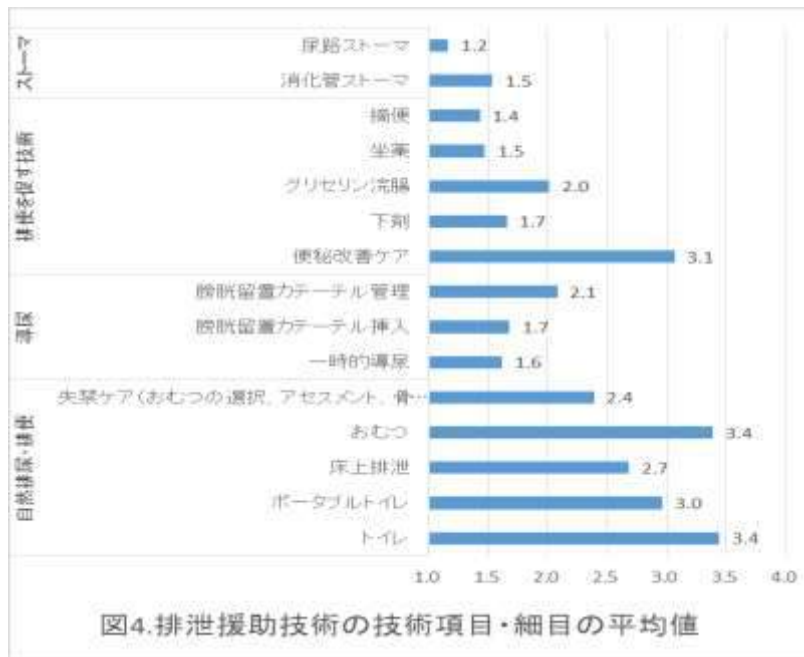
表2.看護技術到達度 技術分類ごとの平均値の比較 (n=75)

技術分類	平均値	SD
環境調整技術	3.5	0.85
安楽確保の技術	3.2	0.90
清潔・衣生活援助技術	3.1	0.93
フィジカルアセスメント	3.0	1.02
活動・休息援助技術	2.8	0.99
感染予防技術	2.7	1.14
安全管理の技術	2.5	1.13
食事援助技術	2.3	0.99
排泄援助技術	2.2	1.02
呼吸・循環を整える技術	2.1	0.98
創傷管理技術	2.0	0.98
救命救急処置	1.8	0.95
症状・生体機能管理技術	1.7	0.99
与薬・誤薬防止の技術	1.7	0.82
死の看取りの技術	1.4	0.96
特殊治療	1.4	0.81
全体	2.3	1.14



次の図 2.～図 17 は、看護技術到達度評価の技術分類ごとに、技術項目の中の技術細目の平均値を示した。





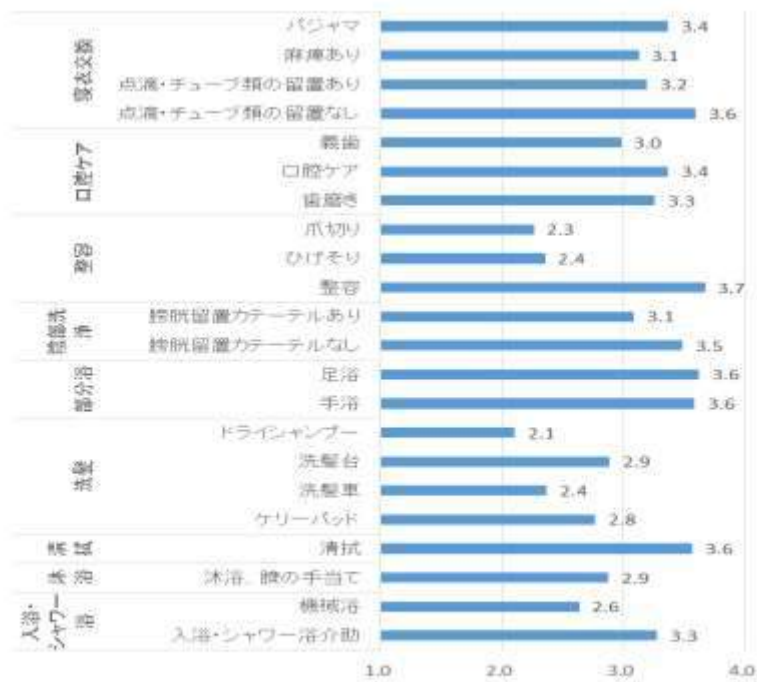


図6.清潔・衣生活援助技術の技術項目・細目の平均値

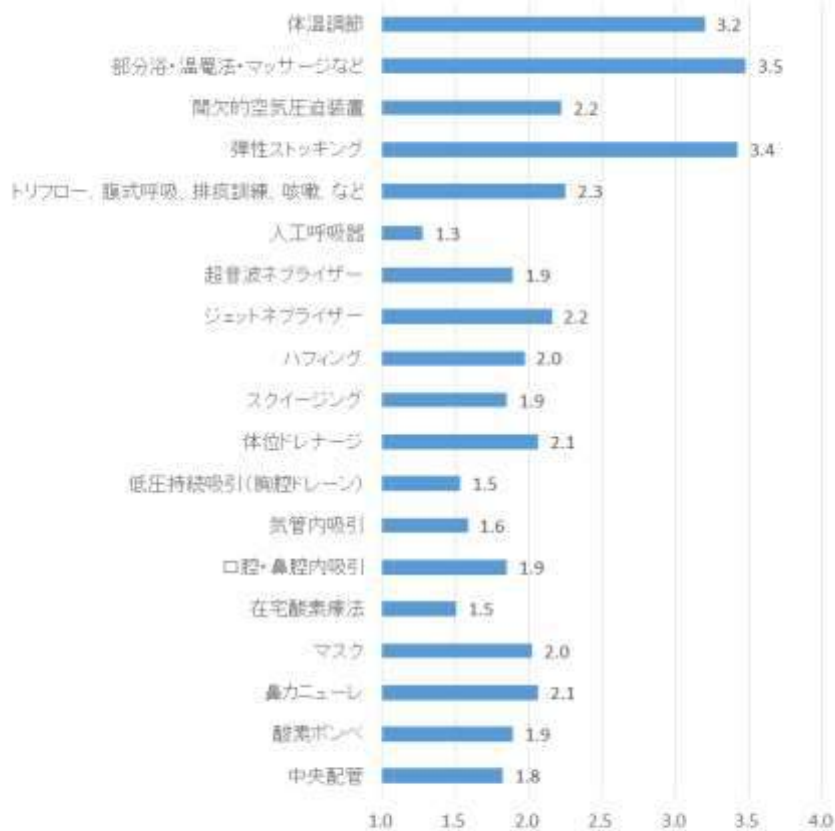


図7.呼吸・循環を整える技術の技術項目・細目の平均値

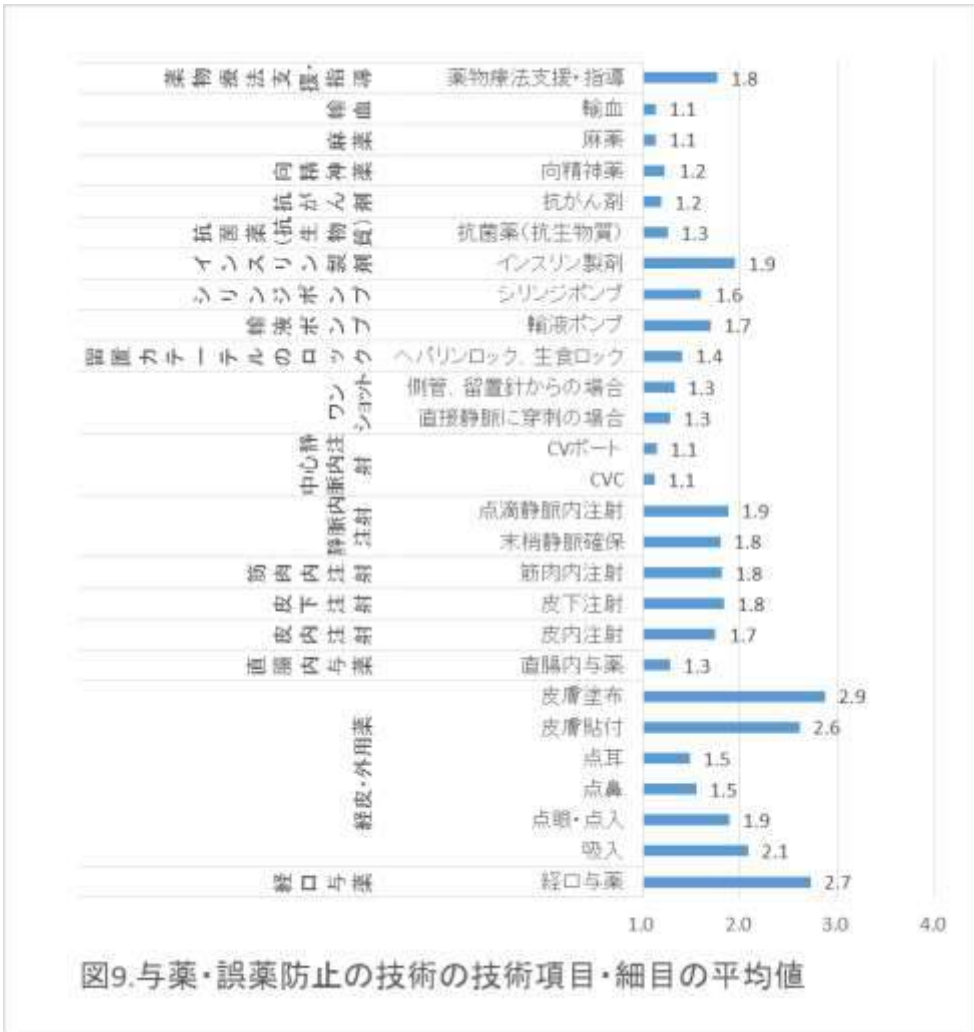




図10.救命救急処置の技術項目・細目の平均値

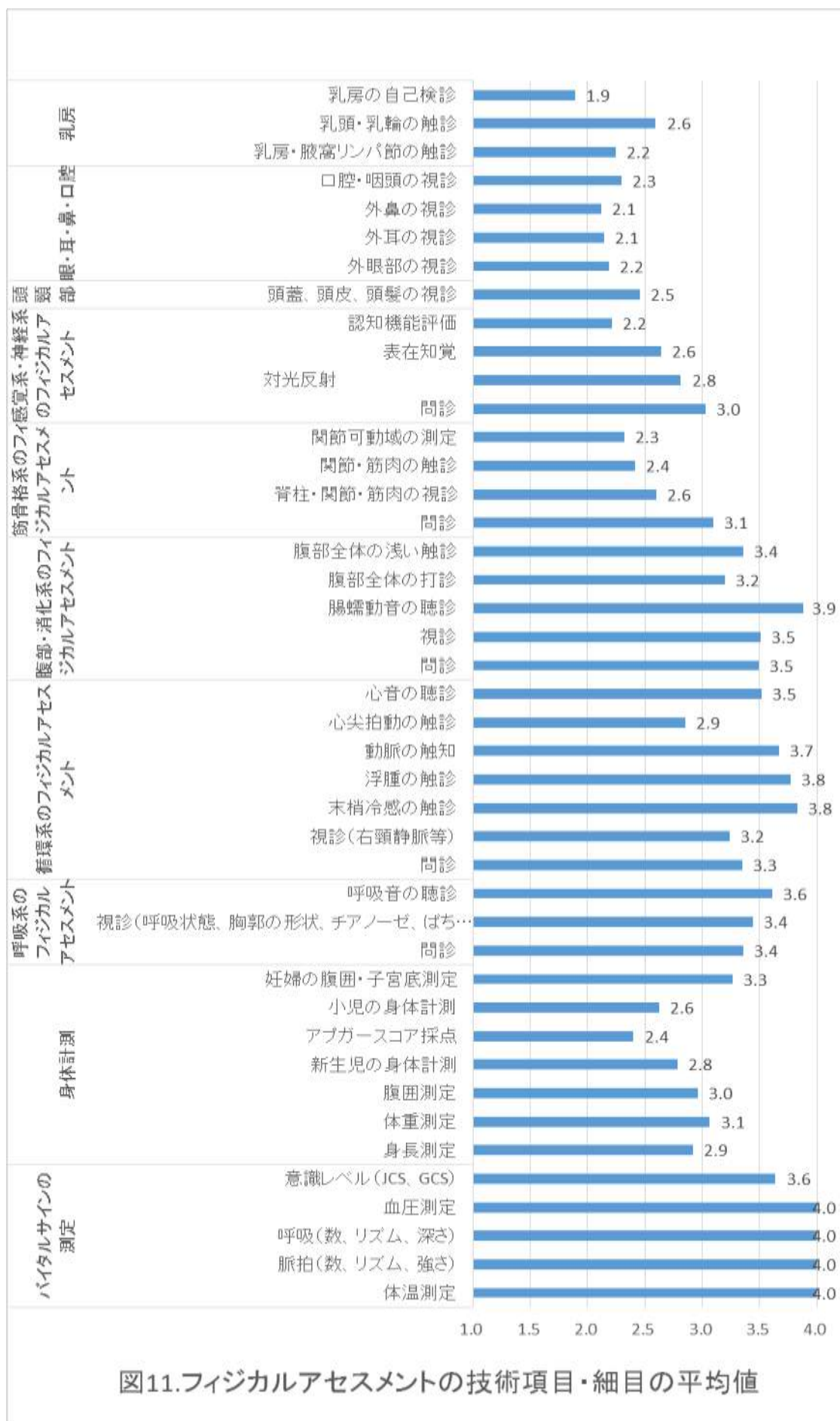


図11.フィジカルアセスメントの技術項目・細目の平均値

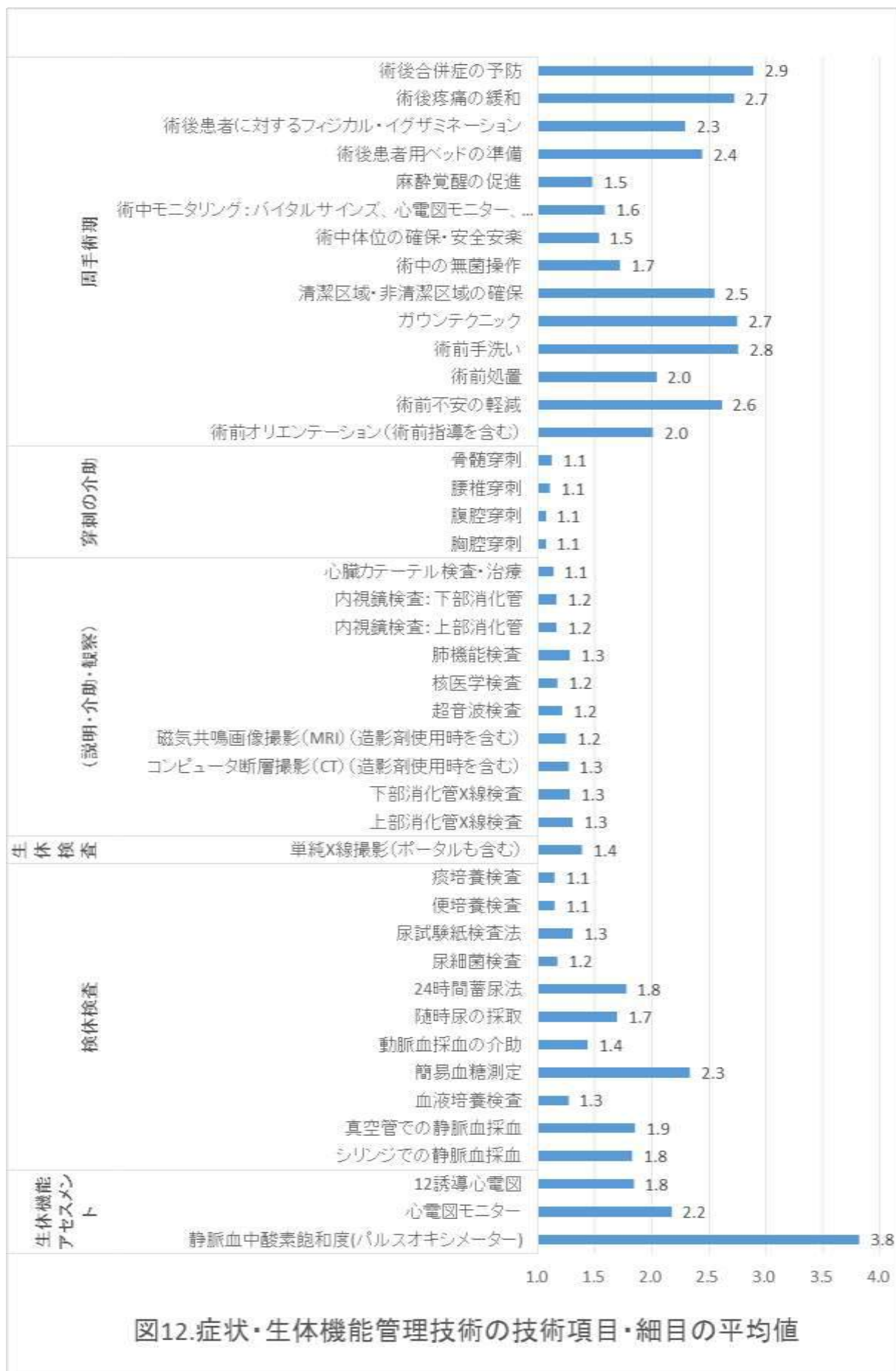


図12.症状・生体機能管理技術の技術項目・細目の平均値

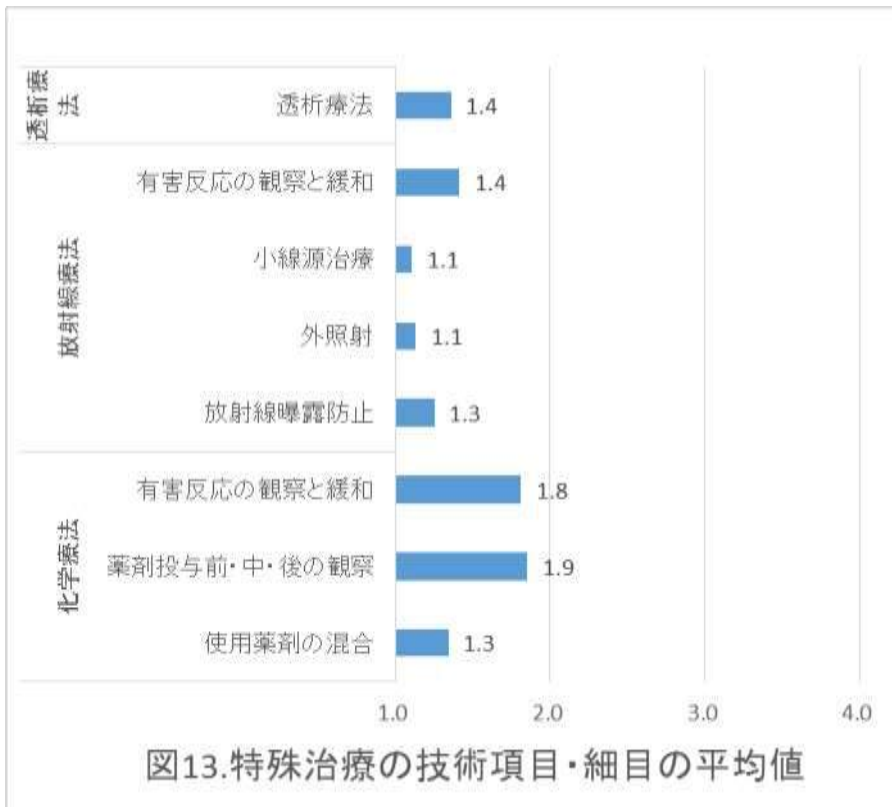


図13.特殊治療の技術項目・細目の平均値

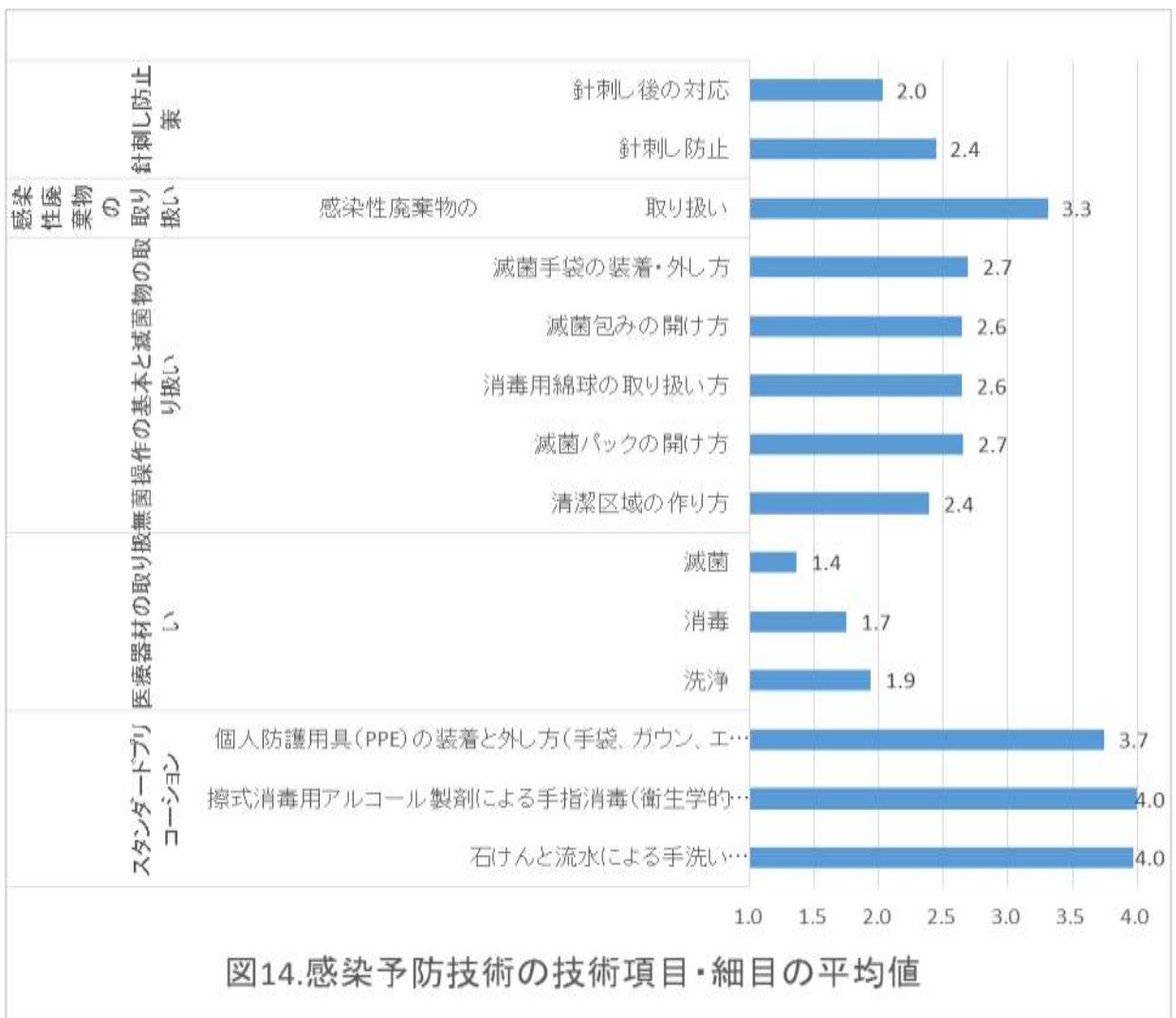
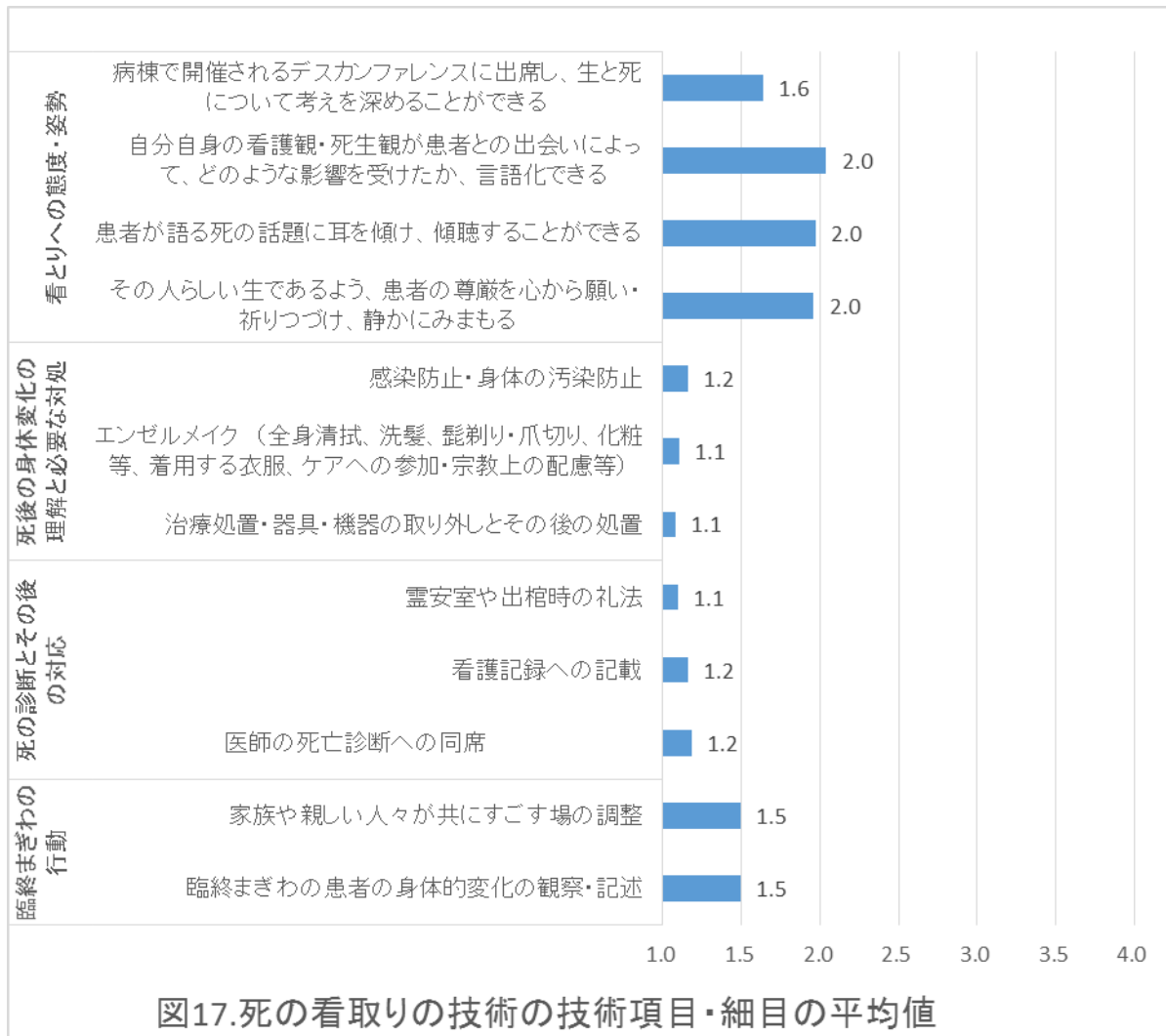


図14.感染予防技術の技術項目・細目の平均値





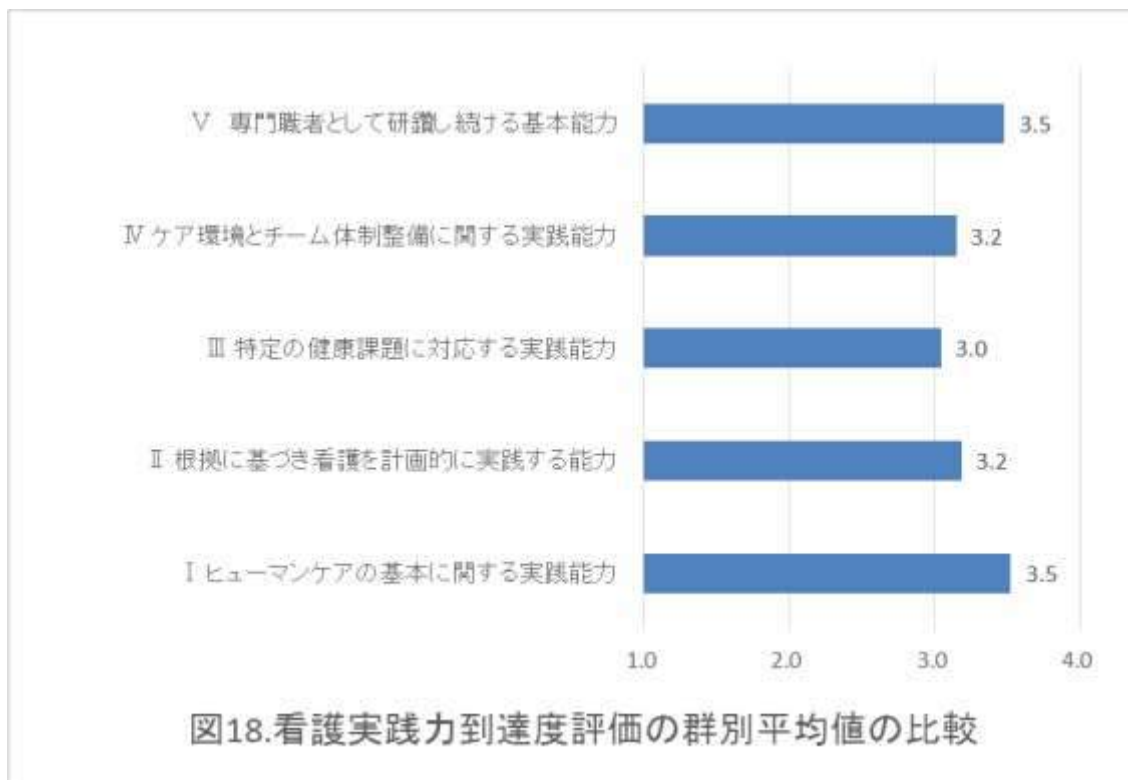
3) 看護実践力到達度評価について

平均値	3.2
SD	0.69

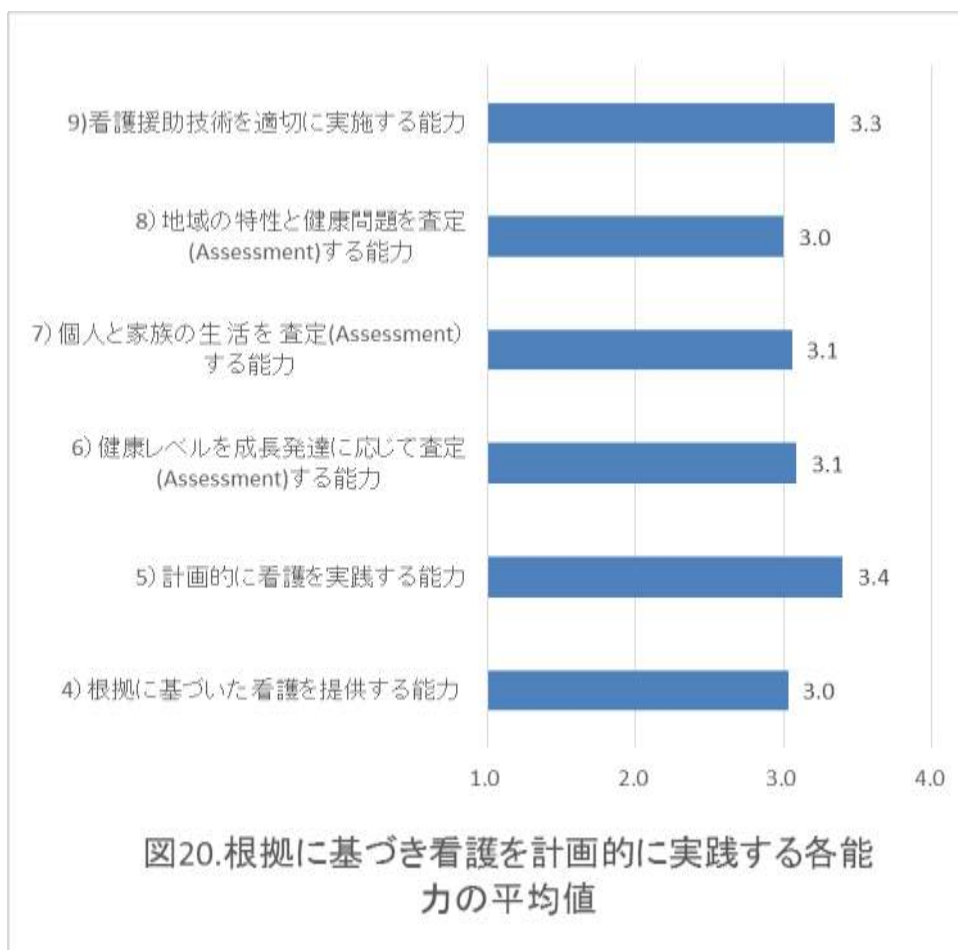
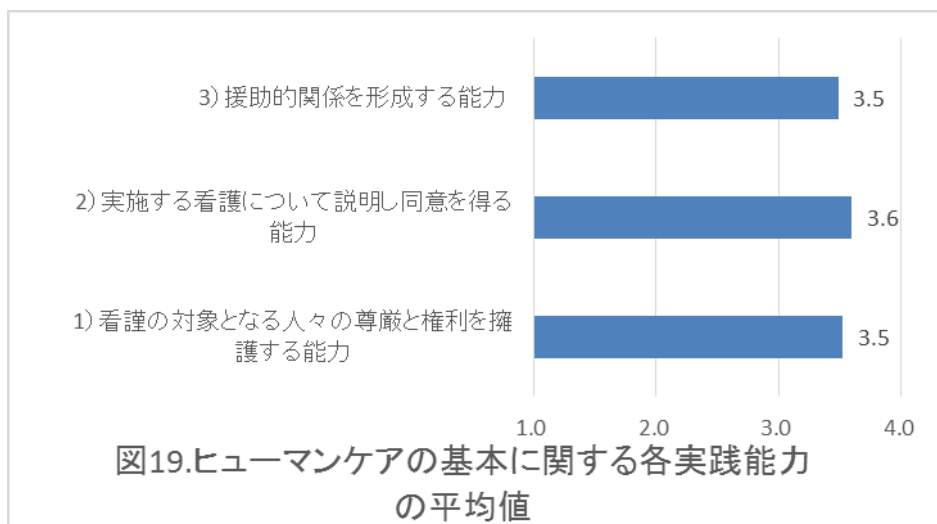
表 3.に示すとおり、看護実践力到達度評価の平均値は 3.2 点、標準偏差 0.69 点であった。

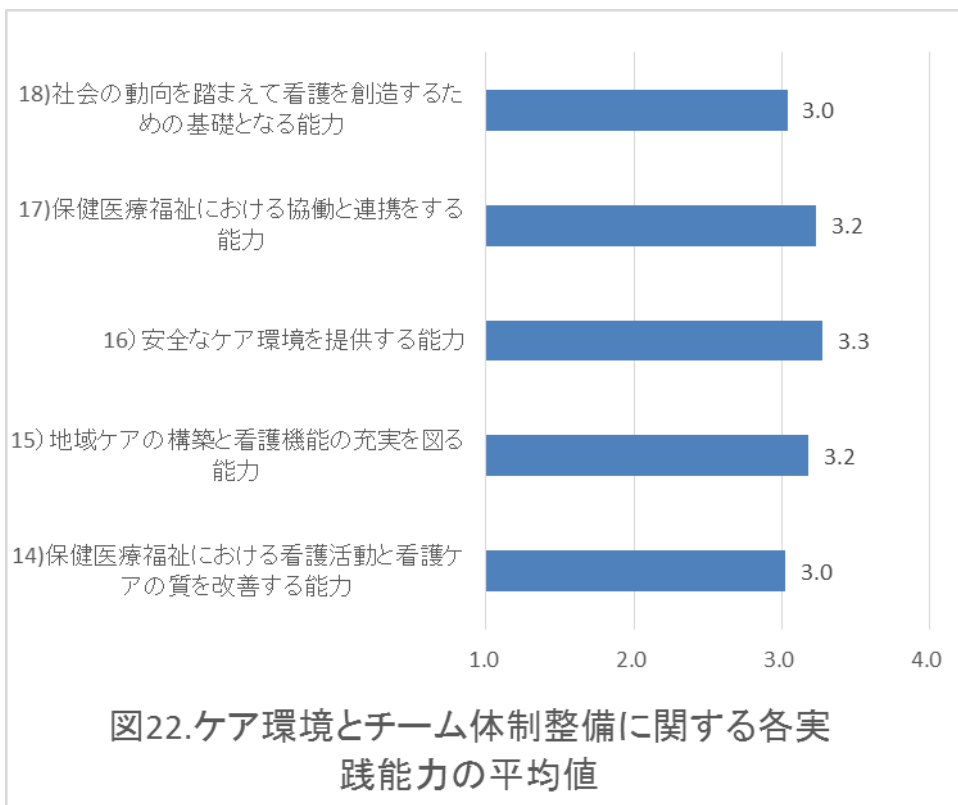
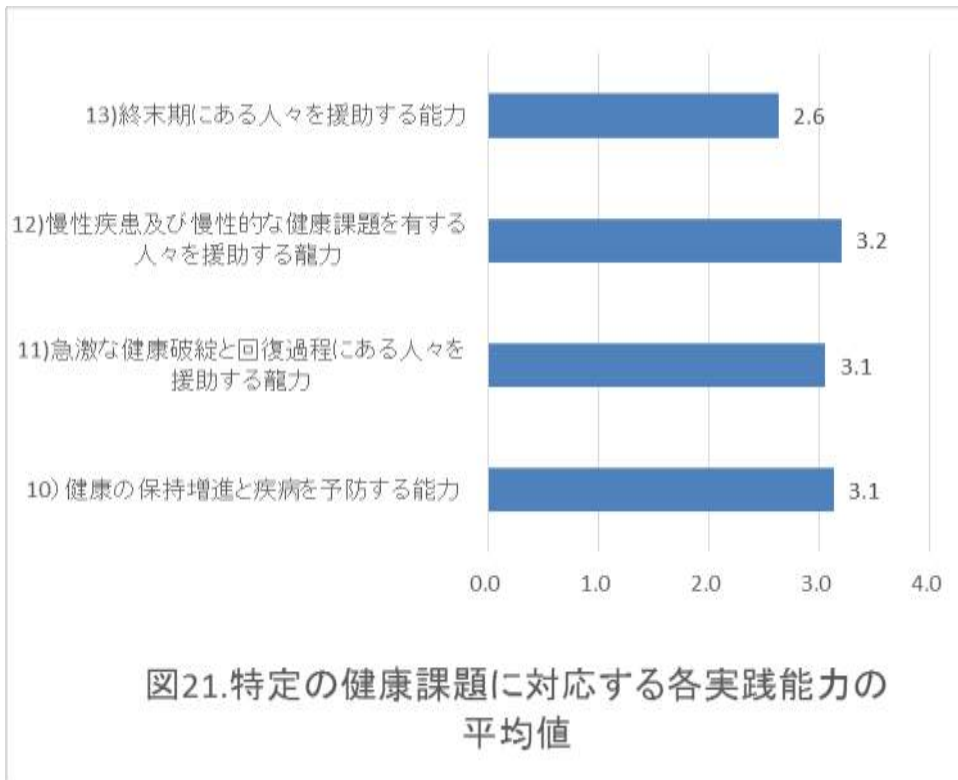
群	平均値	SD
I ヒューマンケアの基本に関する実践能力	3.5	0.56
II 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	3.2	0.66
III 特定の健康課題に対応する実践能力	3.0	0.73
IV ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	3.2	0.68
V 専門職者として研鑽し続ける基本能力	3.5	0.54

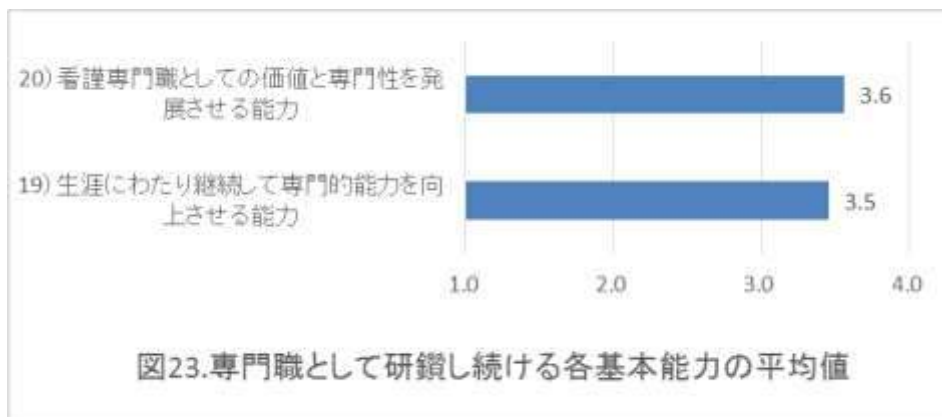
表 4.および図 18.に示すとおり、看護実践力到達度評価の群別で最も高い群は、I.ヒューマンケアの基本に関する実践能力 3.5±0.56 点、V.専門職者として研鑽し続ける基本能力 3.5±0.54 点であった。一方、最も低い群は、III.特定の健康課題に対応する実践能力 3.0±0.73 点であった。



以下の図 19～図 23 は、看護実践力到達度評価の群別の実践能力に関する平均値を示したものである。







7.まとめ

看護技術到達度評価と看護実践力到達度評価の結果をもとに、全体的な傾向と今後の教育上注目すべき技術および実践力について見ていきたい。

まず、巻末ページの表 5.看護技術到達度評価集計表を見ると、平均値 3.0 以上というほぼ技術到達度としては良好な技術であっても、「知識としてわかる（講義のみ）」と回答した学生もいる技術は、学生によっては低い到達度であったと見なされる。それら技術は表 5.の中に黄色帯で示しているものである。

それらを通し番号と<技術項目>技術細目で上げると以下の通りである。<ベッドメイキング>5.臥床患者、<食事介助>6.臥床患者、<自然排尿・排便>19.トイレ、20.ポータブルトイレ、<排便を促す技術>27.便秘改善ケア、<歩行介助>36.自力歩行、37.歩行器、38.杖歩行、<抱っこ移送>46.新生児・乳児、<アクティビティケア>50.レクリエーション活動など、<遊び・学習の援助>51.小児・学童、<ポジショニング>53.ポジショニング、<陰部洗浄>66.膀胱留置カテーテルなし、67.膀胱留置カテーテルあり、<口腔ケア>71.歯磨き、73.義歯、<寝衣交換>75.点滴・チューブ類の留置あり、76.麻痺あり、77.パジャマ、<体温調節>96.体温調節、<褥瘡予防・処置>107.体位の工夫、<バイタルサインの測定>161.意識レベル（JCS、GCS）、<身体計測>163.体重測定、164.腹囲測定、<呼吸系のフィジカルアセスメント>169.問診、170.視診（呼吸状態、胸郭の形状、チアノーゼ、ばち状指の有無等）、<循環系のフィジカルアセスメント>172.問診、173.視診（右頸静脈等）、174.末梢冷感の触診、175.浮腫の触診、176.動脈の触知、178.心音の聴診、<腹部・消化系のフィジカルアセスメント>179.問診、180.視診、182.腹部全体の打診、<筋骨格系のフィジカルアセスメント>184.問診、<感覚系・神経系のフィジカルアセスメント>188.問診、<生体機能アセスメント>200.静脈血中酸素飽和度（パルスオキシメーター）、<スタンダードプリコーション>253.個人防護用具（PPE）の装着と外し方（手袋、ガウン、エプロン、マスク、フェイスシールド、ゴーグル）、<感染性廃棄物の取り扱い>262.感染性廃棄物の取り扱い、<療養環境の調整>271.療養環境の調整、<安楽な体位>274.ポジショニング、<罨法>275.冷罨法（氷枕、氷嚢、氷頸、アイスノン）、276.温罨法（湯たんぽ、温湿布、ホットパック）、<リラクゼーショ

ン>277.リラクゼーション、以上である。

一方で、平均値 3.5 以上であり学内演習で実施できる以上の回答だった技術は表 5.の中に緑色帯で示しているものである。

それらを通し番号と<技術項目>技術細目で上げると以下の通りである。<環境整備>1.一般病床、<ベッドメイキング>3.空床状態、4.離床患者、<車椅子移送>43.車椅子移送、<清拭>59.清拭、<部分浴>64.手浴、65.足浴、<寝衣交換>74.点滴・チューブ類の留置なし、<末梢循環促進ケア>95.部分浴・温罨法・マッサージなど、<バイタルサインの測定>157.体温測定、158.脈拍(数、リズム、強さ)、159.呼吸(数、リズム、深さ)、160.血圧測定、<呼吸系のフィジカルアセスメント>171.呼吸音の聴診、<腹部・消化系のフィジカルアセスメント>181.腸蠕動音の聴診、<スタンダードプリコーション>251.石けんと流水による手洗い(日常的手洗い)、252.擦式消毒用アルコール製剤による手指消毒(衛生学的手洗い)、以上である。

次いで、表 6.看護実践力到達度評価集計表を見ると、到達度が 9 割を示す平均値 3.6 を超える項目は、表 6.に緑色帯で示しているものである。高い順に「5. 価値観や意思を尊重した行動ができる(3.8)」「6. 守秘義務を理解し、意思決定を尊重した態度をとることができる(3.8)」「7. 理解力・意向・意志に合わせた説明をすることができる((3.6))」「8. 実施にあたり、同意・納得・意志決定等を支援できる(3.6)」「9. 自己の関わりの傾向や課題を把握できる(3.6)」「71. 主体的に自己の看護を振り返り、自己の課題を見出すことができる(3.6)」「74. 看護の専門性を高めるために、自己及び他者の価値や可能性を見出す姿勢を持つことができる(3.6)」の 7 項目であった。また、大学卒業時到達度の評価手法開発のための調査研究(日本看護系大学協議会, 2012)の結果と比べると、この 7 項目について「4. 達成できた」「3. まあまあ達成できた」と回答した割合は、該当する全項目の内容において高い傾向がみられた。

逆に、到達度が 7 割を示す平均値 2.8 に満たない項目は、表 6.に黄色帯で示しているものである。低い順に「46. 放射線化学療法に伴う有害事象を緩和しながら、生命力を引き出す看護援助方法を実施できる(2.4)」「55. 看取りをする家族の体験について理解し、家族の個別性を重視した看護援助方法について説明できる(2.6)」「56. 病院や施設、在宅での看取りのための支援体制づくりについて説明できる(2.6)」「29. 個人の健康障害が家族生活に及ぼす影響を捉えて、支援の必要性を査定できる(2.7)」「53. 終末期にある患者の症状緩和、疼痛コントロール、緩和ケアにかかわる看護援助方法について説明できる(2.7)」「54. 終末期にある患者の希望や意思を支え、その人の価値観・生き方を尊重した看護を指導の下で実施できる(2.7)」の 6 項目であった。また、大学卒業時到達度の評価手法開発のための調査研究(日本看護系大学協議会, 2012)と比べると、この 6 項目について「4. 達成できた」「3. まあまあ達成できた」と回答した割合は、該当する 4 項目の内容において低い傾向がみられた。

以上のまとめを踏まえて、今後の方向性を考えてみたい。

今回の調査は、卒業対象学生に行なったものであり、学生側のみの結果であるが、今後、教育上の課題を明確化するためには、教員が求める技術および実践力のレベルを決定していくことが必要である。そして、教員評価と学生評価の比較により、教育と学習の乖離している技術・実践力を明らかにする必要があると考える。その上で、学習支援方法および評価方法を検討することが期待される。

現在、講義・演習・実習という教育方法の積み上げを行なっているが、卒業時に期待される看護実践力を修得するためには、如何に効果的な実習経験が出来るかという観点は重要である。基礎看護学実習から看護実践統合実習にわたる実習経験が、技術修得においても、看護実践力修得においても、明確な段階を経て学習できるように、学生側にも各レベルを示す必要がある。

日本看護系大学協議会においても検討されている看護実践力ごとに学年ごとの学習到達目標を示すことで、学生の目標設定に貢献できると考えられる。またそれら看護実践力に対して、各専門科目がどのように繋がっているかを明確に示すことも、重要と考えられる。

資料

表 5.看護技術到達度評価 集計表

表 6.看護実践力到達度評価 集計表

表5.看護技術到達度評価 集計表

技術分類	技術項目	通し番号	技術細目	3.0以上の平均値にも関わらず「知識としてわかる」の回答有				3.5以上の平均値かつ学内演習で実施できる以上の回答有			
				知識としてわかる(講義のみ)	学内演習で実施できる	看護師・教員の指導のもとで実施できる	単独で実施できる	技術細目		技術分類	
				1	2	3	4	平均値	SD	平均値	SD
環境調整技術	環境整備	1	一般病床	0.0%	0.0%	6.7%	93.3%	3.9	0.25	3.5	0.85
		2	在宅療養者の居宅環境	28.0%	10.7%	50.7%	10.7%	2.4	1.02		
	ベッドメイキング	3	空床状態	0.0%	1.3%	5.3%	93.3%	3.9	0.32		
		4	離床患者	0.0%	0.0%	8.0%	92.0%	3.9	0.27		
		5	臥床患者	1.3%	17.3%	44.0%	37.3%	3.2	0.76		
食事援助技術	食事介助	6	臥床患者	4.0%	20.0%	38.7%	37.3%	3.1	0.86	2.3	0.99
		7	上肢機能障害	12.0%	20.0%	40.0%	28.0%	2.8	0.97		
		8	視覚障害	42.7%	17.3%	22.7%	17.3%	2.1	1.16		
		9	摂食・嚥下障害	17.3%	24.0%	49.3%	9.3%	2.5	0.89		
		10	新生児の授乳介助	10.7%	17.3%	62.7%	9.3%	2.7	0.78		
		11	新生児の哺乳	21.3%	25.3%	44.0%	9.3%	2.4	0.93		
	経管栄養法	13	経鼻経管栄養法の胃管挿入	40.0%	53.3%	5.3%	1.3%	1.7	0.64		
		14	経鼻経管栄養法の栄養物注入・管理	33.3%	44.0%	21.3%	1.3%	1.9	0.77		
		15	胃瘻の栄養物の注入・管理	42.7%	34.7%	21.3%	1.3%	1.8	0.82		
	経静脈栄養法	16	経静脈栄養法	65.3%	29.3%	5.3%	0.0%	1.4	0.59		
	摂食・嚥下訓練	17	摂食・嚥下訓練	23.0%	39.2%	35.1%	2.7%	2.2	0.82		
食生活支援	18	食生活支援	18.7%	18.7%	50.7%	12.0%	2.6	0.93	2.2	1.02	
排泄援助技術	自然排尿・排便	19	トイレ	1.3%	1.3%	49.3%	48.0%	3.4			0.60
		20	ポータブルトイレ	4.0%	21.3%	49.3%	25.3%	3.0			0.80
		21	床上排泄	5.3%	33.3%	49.3%	12.0%	2.7			0.76
		22	おむつ	0.0%	0.0%	61.3%	38.7%	3.4			0.49
		23	失禁ケア(おむつの選択、アセスメント、骨盤底筋群体操など)	18.7%	29.3%	46.7%	5.3%	2.4			0.85
	導尿	24	一時的導尿	45.3%	49.3%	4.0%	1.3%	1.6			0.63
		25	膀胱留置カテーテル挿入	36.0%	61.3%	1.3%	1.3%	1.7			0.57
		26	膀胱留置カテーテル管理	33.3%	29.3%	33.3%	4.0%	2.1			0.91
	排便を促す技術	27	便秘改善ケア	5.3%	18.7%	40.0%	36.0%	3.1			0.88
		28	下剤	53.3%	30.7%	13.3%	2.7%	1.7			0.81
29		グリセリン浣腸	18.7%	64.0%	14.7%	2.7%	2.0	0.67			
30		坐薬	64.0%	26.7%	8.0%	1.3%	1.5	0.70			
31		摘便	65.3%	26.7%	8.0%	0.0%	1.4	0.64			
ストーマ	32	消化管ストーマ	56.0%	37.3%	4.0%	2.7%	1.5	0.70			
	33	尿路ストーマ	85.3%	13.3%	1.3%	0.0%	1.2	0.40			
活動・休息援助技術	体位変換	34	自力体動が困難な患者	0.0%	6.7%	65.3%	28.0%	3.2	0.55	2.8	0.99
		35	治療状況(禁止肢位等)にある人	20.0%	12.0%	64.0%	4.0%	2.5	0.86		
	歩行介助	36	自力歩行	2.7%	1.3%	13.3%	82.7%	3.8	0.61		
		37	歩行器	9.3%	4.0%	33.3%	53.3%	3.3	0.93		
		38	杖歩行	1.3%	20.0%	37.3%	41.3%	3.2	0.80		
		39	視覚障害	38.7%	32.0%	21.3%	8.0%	2.0	0.97		
	車椅子移乗	40	全介助(廃用萎縮、衰弱等)	9.3%	16.0%	62.7%	12.0%	2.8	0.78		
		41	残存機能を生かした自立援助(麻痺)	8.0%	12.0%	62.7%	17.3%	2.9	0.78		
		42	福祉用具の活用(リフト、スライダ等)	54.7%	21.3%	21.3%	2.7%	1.7	0.89		
	車椅子移送	43	車椅子移送	0.0%	1.3%	18.7%	80.0%	3.8	0.44		
	ストレッチャー移乗	44	ストレッチャー移乗	2.7%	38.7%	52.0%	6.7%	2.6	0.65		
	ストレッチャー移送	45	ストレッチャー移送	8.0%	32.0%	44.0%	16.0%	2.7	0.84		
	抱っこ移送	46	新生児・乳児	6.7%	17.3%	40.0%	36.0%	3.1	0.90		
	廃用症候群予防	47	自動・他動運動	17.3%	30.7%	41.3%	10.7%	2.5	0.90		
		48	関節可動域訓練	24.0%	37.3%	32.0%	6.7%	2.2	0.89		
	ADL評価	49	ADL、IADL評価	40.0%	16.0%	34.7%	9.3%	2.1	1.06		
	アクティビティケア	50	レクリエーション活動など	6.7%	6.7%	41.3%	45.3%	3.3	0.86		
遊び・学習の援助	51	小児・学童	2.7%	4.0%	41.3%	52.0%	3.4	0.70			
安静保持・体動制限時の援助	52	安静保持・体動制限時の援助	17.3%	14.7%	46.7%	21.3%	2.7	0.99			
ポジショニング	53	ポジショニング	9.3%	9.3%	54.7%	26.7%	3.0	0.86			
睡眠・覚醒の援助	54	入眠・睡眠を促す援助	10.7%	14.7%	44.0%	30.7%	2.9	0.94			
	55	覚醒を促す援助	20.0%	14.7%	32.0%	33.3%	2.8	1.12			
清潔・衣生	入浴・シャワー浴	56	入浴・シャワー浴介助	0.0%	2.7%	66.7%	30.7%	3.3	0.51	3.1	0.93
		57	機械浴	18.7%	6.7%	66.7%	8.0%	2.6	0.88		
	沐浴	58	沐浴、臍の手当て	2.7%	30.7%	42.7%	24.0%	2.9	0.80		
	清拭	59	清拭	0.0%	1.3%	40.0%	58.7%	3.6	0.52		

活 援 助 技 術	洗髪	60	ケリーバッド	0.0%	41.9%	39.2%	18.9%	2.8	0.75	2.1	0.98
		61	洗髪車	16.0%	44.0%	26.7%	13.3%	2.4	0.91		
		62	洗髪台	5.3%	26.7%	41.3%	26.7%	2.9	0.86		
		63	ドライシャンプー	45.3%	18.7%	16.0%	20.0%	2.1	1.19		
	部分浴	64	手浴	0.0%	8.1%	24.3%	67.6%	3.6	0.64		
		65	足浴	0.0%	2.7%	32.0%	65.3%	3.6	0.54		
	陰部洗浄	66	膀胱留置カテーテルなし	1.3%	1.3%	44.0%	53.3%	3.5	0.60		
		67	膀胱留置カテーテルあり	8.0%	6.7%	53.3%	32.0%	3.1	0.84		
	整容	68	整容	0.0%	4.0%	24.0%	72.0%	3.7	0.55		
		69	ひげそり	40.0%	5.3%	33.3%	21.3%	2.4	1.22		
		70	爪切り	40.0%	10.7%	32.0%	17.3%	2.3	1.17		
	口腔ケア	71	歯磨き	1.3%	17.3%	34.7%	46.7%	3.3	0.79		
		72	口腔ケア	0.0%	8.0%	46.7%	45.3%	3.4	0.63		
		73	義歯	18.7%	5.3%	34.7%	41.3%	3.0	1.11		
	寝衣交換	74	点滴・チューブ類の留置なし	0.0%	1.3%	37.3%	61.3%	3.6	0.52		
		75	点滴・チューブ類の留置あり	1.3%	6.7%	62.7%	29.3%	3.2	0.62		
76		麻痺あり	1.3%	12.0%	58.7%	28.0%	3.1	0.66			
77		パジャマ	2.7%	8.0%	38.7%	50.7%	3.4	0.75			
呼 吸 ・ 循 環 を 整 え る 技 術	酸素吸入法	78	中央配管	36.0%	48.0%	13.3%	2.7%	1.8	0.76		
		79	酸素ボンベ	26.7%	58.7%	13.3%	1.3%	1.9	0.67		
		80	鼻カニューレ	26.7%	45.3%	22.7%	5.3%	2.1	0.84		
		81	マスク	28.0%	46.7%	20.0%	5.3%	2.0	0.84		
		82	在宅酸素療法	58.7%	33.3%	6.7%	1.3%	1.5	0.69		
	吸引	83	口腔・鼻腔内吸引	29.3%	56.0%	14.7%	0.0%	1.9	0.65		
		84	気管内吸引	48.0%	45.3%	6.7%	0.0%	1.6	0.62		
	持続吸引	85	低圧持続吸引(胸腔ドレーン)	54.7%	37.3%	8.0%	0.0%	1.5	0.64		
	排たんケア	86	体位ドレナージ	26.7%	42.7%	28.0%	2.7%	2.1	0.81		
		87	スクイーピング	34.7%	48.0%	14.7%	2.7%	1.9	0.77		
		88	ハフティング	26.7%	52.0%	18.7%	2.7%	2.0	0.75		
	吸入	89	ジェットネブライザー	28.0%	40.0%	20.0%	12.0%	2.2	0.97		
		90	超音波ネブライザー	37.3%	40.0%	18.7%	4.0%	1.9	0.85		
	人工呼吸器	91	人工呼吸器	73.3%	25.3%	1.3%	0.0%	1.3	0.48		
	術前呼吸訓練	92	トリプロン、腹式呼吸、排痰訓練、咳嗽、など	18.7%	46.7%	25.3%	9.3%	2.3	0.87		
	末梢循環促進ケア	93	弾性ストッキング	0.0%	8.0%	41.3%	50.7%	3.4	0.64		
体温調節	94	間欠的空気圧迫装置	41.3%	14.7%	24.0%	20.0%	2.2	1.19			
	95	部分浴・温湯法・マッサージなど	0.0%	6.7%	38.7%	54.7%	3.5	0.62			
96	体温調節	9.3%	6.7%	38.7%	45.3%	3.2	0.93				
創 傷 管 理 技 術	創傷処置	97	創消毒・創洗浄	40.0%	33.3%	24.0%	2.7%	1.9	0.86		
		98	創保護	33.8%	36.5%	28.4%	1.4%	2.0	0.83		
		99	包帯法	5.4%	60.8%	25.7%	8.1%	2.4	0.71		
		100	ドレーン管理	20.0%	40.0%	36.0%	4.0%	2.2	0.82		
		101	熱傷処置	84.0%	13.3%	2.7%	0.0%	1.2	0.46		
	骨・関節・筋の固定	102	直達牽引	84.0%	9.3%	6.7%	0.0%	1.2	0.56		
		103	介達牽引	82.7%	10.7%	6.7%	0.0%	1.2	0.57		
		104	ギブス固定	76.0%	12.0%	8.0%	4.0%	1.4	0.81		
		105	三角巾	10.7%	69.3%	16.0%	4.0%	2.1	0.64		
	褥瘡予防・処置	106	体圧分散	12.0%	26.7%	48.0%	13.3%	2.6	0.87		
107		体位の工夫	2.7%	10.7%	54.7%	32.0%	3.2	0.72			
108		栄養状態管理	26.7%	20.0%	45.3%	8.0%	2.3	0.97			
109		スキンケア	12.0%	14.7%	52.0%	21.3%	2.8	0.91			
与 薬 ・ 誤 薬 防 止 の 技 術	経口与薬	110	経口与薬	14.7%	14.7%	54.7%	16.0%	2.7	0.91		
	経皮・外用薬	111	吸入	33.3%	36.0%	20.0%	10.7%	2.1	0.98		
		112	点眼・点入	49.3%	18.7%	25.3%	6.7%	1.9	1.01		
		113	点鼻	64.0%	21.3%	10.7%	4.0%	1.5	0.84		
		114	点耳	68.0%	18.7%	10.7%	2.7%	1.5	0.79		
		115	皮膚貼付	24.0%	12.0%	42.7%	21.3%	2.6	1.08		
		116	皮膚塗布	18.7%	5.3%	46.7%	29.3%	2.9	1.04		
	直腸内与薬	117	直腸内与薬	76.0%	20.0%	4.0%	0.0%	1.3	0.53		
	皮内注射	118	皮内注射	28.0%	69.3%	2.7%	0.0%	1.7	0.50		
	皮下注射	119	皮下注射	20.0%	77.3%	2.7%	0.0%	1.8	0.45		
	筋肉内注射	120	筋肉内注射	21.3%	76.0%	2.7%	0.0%	1.8	0.46		
	静脈内注射	121	末梢静脈確保	24.0%	72.0%	4.0%	0.0%	1.8	0.49		
		122	点滴静脈内注射	17.3%	78.7%	2.7%	1.3%	1.9	0.49		
	中心静脈内注射	123	CVC	88.0%	12.0%	0.0%	0.0%	1.1	0.33		
124		CVポート	85.3%	14.7%	0.0%	0.0%	1.1	0.36			
ワンショット	125	直接静脈に穿刺の場合	72.0%	28.0%	0.0%	0.0%	1.3	0.45			
	126	側管、留置針からの場合	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	1.3	0.47			
留置カテーテルのロック	127	ヘパリンロック、生食ロック	65.3%	29.3%	5.3%	0.0%	1.4	0.59			

	輸液ポンプ	128	輸液ポンプ	41.3%	48.0%	10.7%	0.0%	1.7	0.66		
	シリンジポンプ	129	シリンジポンプ	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%	1.6	0.62		
	インスリン製剤	130	インスリン製剤	22.7%	60.0%	17.3%	0.0%	1.9	0.63		
	抗菌薬(抗生物質)	131	抗菌薬(抗生物質)	80.0%	14.7%	5.3%	0.0%	1.3	0.55		
	抗がん剤	132	抗がん剤	86.7%	8.0%	5.3%	0.0%	1.2	0.51		
	向精神薬	133	向精神薬	84.0%	9.3%	6.7%	0.0%	1.2	0.56		
	麻薬	134	麻薬	90.7%	5.3%	4.0%	0.0%	1.1	0.45		
	輸血	135	輸血	88.0%	10.7%	1.3%	0.0%	1.1	0.38		
	薬物療法支援・指導	136	薬物療法支援・指導	54.7%	14.7%	30.7%	0.0%	1.8	0.90		
救命救急処置	救急カードの整備・点検	137	格納されている医療器具・薬剤などの点検	52.0%	21.3%	22.7%	4.0%	1.8	0.93	1.8	0.95
	緊急時の行動	138	救急患者に対する基本的な観察(意識・呼吸・循環)	16.0%	49.3%	28.0%	6.7%	2.3	0.81		
		139	トリアージ(緊急度・重症度)	8.0%	65.3%	24.0%	2.7%	2.2	0.62		
		140	チームメンバーへの応援要請	34.7%	48.0%	9.3%	8.0%	1.9	0.87		
	一次救命処置	141	応援要請	16.0%	48.0%	8.0%	28.0%	2.5	1.07		
		142	気道確保	6.7%	57.3%	8.0%	28.0%	2.6	0.98		
		143	人工呼吸(バッグマスクの使用を含む)	4.0%	56.0%	16.0%	24.0%	2.6	0.90		
		144	閉鎖式心マッサージ	9.3%	53.3%	9.3%	28.0%	2.6	1.00		
		145	AED(自動体外式除細動器)の取扱い	4.0%	50.7%	10.7%	34.7%	2.8	0.98		
	二次救命処置	146	気管内挿管の準備・介助	70.7%	26.7%	2.7%	0.0%	1.3	0.52		
		147	薬物療法を行う患者の観察	62.7%	28.0%	4.0%	5.3%	1.5	0.81		
		148	除細動器の管理	70.7%	24.0%	5.3%	0.0%	1.3	0.58		
		149	除細動実施の介助	64.0%	30.7%	4.0%	1.3%	1.4	0.64		
		150	除細動器を用いた一連の心肺蘇生法	60.0%	30.7%	6.7%	2.7%	1.5	0.74		
		151	経過中の記録	70.7%	21.3%	8.0%	0.0%	1.4	0.63		
	止血	152	出血患者の観察	61.3%	17.3%	16.0%	5.3%	1.7	0.94		
		153	直接圧迫止血法	56.0%	32.0%	6.7%	5.3%	1.6	0.84		
154		テープ固定	65.3%	18.7%	14.7%	1.3%	1.5	0.79			
155		創縫合の介助	82.7%	13.3%	2.7%	1.3%	1.2	0.56			
156	胃洗浄実施時の援助	86.7%	12.0%	0.0%	1.3%	1.2	0.47				
フィジカルアセスメント	バイタルサインの測定	157	体温測定	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.0	0.00	3.0	1.02
		158	脈拍(数、リズム、強さ)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.0	0.00		
		159	呼吸(数、リズム、深さ)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.0	0.00		
		160	血圧測定	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.0	0.00		
		161	意識レベル(JCS、GCS)	2.7%	6.7%	14.7%	76.0%	3.6	0.73		
	身体計測	162	身長測定	13.3%	24.0%	20.0%	42.7%	2.9	1.10		
		163	体重測定	10.7%	17.3%	26.7%	45.3%	3.1	1.03		
		164	腹囲測定	10.7%	24.0%	24.0%	41.3%	3.0	1.05		
		165	新生児の身体計測	6.7%	29.3%	42.7%	21.3%	2.8	0.86		
		166	アプガースコア採点	25.3%	24.0%	36.0%	14.7%	2.4	1.03		
		167	小児の身体計測	13.3%	32.0%	33.3%	21.3%	2.6	0.97		
		168	妊婦の腹囲・子宮底測定	0.0%	8.0%	57.3%	34.7%	3.3	0.60		
		169	問診	1.3%	10.7%	38.7%	49.3%	3.4	0.73		
	呼吸系のフィジカルアセスメント	170	視診(呼吸状態、胸郭の形状、チアノーゼ、ばち状指の有無等)	1.3%	9.3%	33.3%	56.0%	3.4	0.72		
		171	呼吸音の聴診	0.0%	1.4%	36.5%	62.2%	3.6	0.52		
		172	問診	2.7%	10.7%	36.0%	50.7%	3.3	0.78		
	循環系のフィジカルアセスメント	173	視診(右頸静脈等)	5.3%	12.0%	36.0%	46.7%	3.2	0.87		
		174	末梢冷感の触診	1.3%	0.0%	13.3%	85.3%	3.8	0.48		
		175	浮腫の触診	1.3%	0.0%	18.7%	80.0%	3.8	0.51		
		176	動脈の触知	4.0%	1.3%	18.7%	76.0%	3.7	0.70		
		177	心尖拍動の触診	16.0%	14.7%	37.3%	32.0%	2.9	1.05		
		178	心音の聴診	1.3%	4.0%	36.0%	58.7%	3.5	0.64		
		179	問診	2.7%	5.3%	32.0%	60.0%	3.5	0.72		
	腹部・消化系のフィジカルアセスメント	180	視診	1.3%	9.3%	26.7%	62.7%	3.5	0.72		
		181	腸蠕動音の聴診	0.0%	0.0%	12.0%	88.0%	3.9	0.33		
		182	腹部全体の打診	2.7%	16.0%	40.0%	41.3%	3.2	0.81		
		183	腹部全体の浅い触診	0.0%	10.7%	42.7%	46.7%	3.4	0.67		
184		問診	6.7%	18.7%	33.3%	41.3%	3.1	0.93			
筋骨格系のフィジカルアセスメント	185	脊柱・関節・筋肉の視診	9.3%	41.3%	29.3%	20.0%	2.6	0.92			
	186	関節・筋肉の触診	14.7%	44.0%	26.7%	14.7%	2.4	0.92			
	187	関節可動域の測定	10.7%	54.7%	26.7%	8.0%	2.3	0.77			
	188	問診	5.3%	24.0%	33.3%	37.3%	3.0	0.91			
感覚系・神経系のフィジカルアセスメント	189	対光反射	4.0%	44.0%	18.7%	33.3%	2.8	0.95			
	190	表在知覚	13.3%	32.0%	32.0%	22.7%	2.6	0.98			
	191	認知機能評価	28.0%	30.7%	33.3%	8.0%	2.2	0.95			
頭頸部 眼・耳・鼻・口腔	192	頭蓋、頭皮、頭髮の視診	20.0%	30.7%	33.3%	16.0%	2.5	0.99			
	193	外眼部の視診	29.3%	36.0%	21.3%	13.3%	2.2	1.01			
	194	外耳の視診	32.0%	33.3%	22.7%	12.0%	2.1	1.01			
	195	外鼻の視診	33.3%	33.3%	21.3%	12.0%	2.1	1.01			

乳房	196	口腔・咽頭の視診	27.0%	28.4%	32.4%	12.2%	2.3	1.00						
	197	乳房・腋窩リンパ節の触診	32.4%	18.9%	40.5%	8.1%	2.2	1.00						
	198	乳頭・乳輪の触診	17.6%	13.5%	60.8%	8.1%	2.6	0.87						
	199	乳房の自己検診	47.3%	24.3%	20.3%	8.1%	1.9	1.00						
症状・ 生体機能管理技術	生体機能アセスメント	200	静脈血中酸素飽和度(パルスオキシメーター)	2.7%	2.7%	4.1%	90.5%	3.8	0.60	1.7	0.99			
		201	心電図モニター	22.7%	38.7%	37.3%	1.3%	2.2	0.79					
		202	12誘導心電図	38.7%	38.7%	22.7%	0.0%	1.8	0.77					
	検体検査	203	シリンジでの静脈血採血	24.0%	72.0%	1.3%	2.7%	1.8	0.58					
		204	真空管での静脈血採血	21.3%	74.7%	1.3%	2.7%	1.9	0.56					
		205	血液培養検査	78.7%	17.3%	2.7%	1.3%	1.3	0.58					
		206	簡易血糖測定	17.3%	46.7%	21.3%	14.7%	2.3	0.93					
		207	動脈血採血の介助	70.7%	18.7%	6.7%	4.0%	1.4	0.79					
		208	随時尿の採取	60.0%	17.3%	16.0%	6.7%	1.7	0.97					
		209	24時間蓄尿法	53.3%	24.0%	14.7%	8.0%	1.8	0.98					
		210	尿細菌検査	86.7%	10.7%	1.3%	1.3%	1.2	0.50					
		211	尿試験紙検査法	78.7%	12.0%	9.3%	0.0%	1.3	0.64					
		212	便培養検査	88.0%	9.3%	2.7%	0.0%	1.1	0.43					
		213	痰培養検査	88.0%	9.3%	2.7%	0.0%	1.1	0.43					
	生体検査 (説明・介助・観察)	214	単純X線撮影(ポータルも含む)	78.7%	5.3%	14.7%	1.3%	1.4	0.79					
		215	上部消化管X線検査	81.3%	8.0%	9.3%	1.3%	1.3	0.70					
		216	下部消化管X線検査	82.7%	8.0%	8.0%	1.3%	1.3	0.67					
		217	コンピュータ断層撮影(CT)(造影剤使用時を含む)	84.0%	6.7%	8.0%	1.3%	1.3	0.66					
		218	磁気共鳴画像撮影(MRI)(造影剤使用時を含む)	86.5%	4.1%	8.1%	1.4%	1.2	0.66					
		219	超音波検査	88.0%	4.0%	6.7%	1.3%	1.2	0.62					
		220	核医学検査	90.7%	2.7%	5.3%	1.3%	1.2	0.58					
		221	肺機能検査	80.0%	13.3%	5.3%	1.3%	1.3	0.63					
		222	内視鏡検査:上部消化管	90.7%	4.0%	4.0%	1.3%	1.2	0.55					
		223	内視鏡検査:下部消化管	90.7%	4.0%	4.0%	1.3%	1.2	0.55					
		224	心臓カテーテル検査・治療	90.7%	5.3%	4.0%	0.0%	1.1	0.45					
	穿刺の介助	225	胸腔穿刺	96.0%	2.7%	0.0%	1.3%	1.1	0.38					
		226	腹腔穿刺	96.0%	2.7%	0.0%	1.3%	1.1	0.38					
		227	腰椎穿刺	93.3%	4.0%	1.3%	1.3%	1.1	0.45					
		228	骨髄穿刺	93.3%	2.7%	2.7%	1.3%	1.1	0.49					
	周手術期	229	術前オリエンテーション(術前指導を含む)	36.0%	28.0%	34.7%	1.3%	2.0	0.88					
		230	術前不安の軽減	21.3%	18.7%	37.3%	22.7%	2.6	1.06					
		231	術前処置	41.3%	20.0%	32.0%	6.7%	2.0	1.01					
		232	術前手洗い	22.7%	12.0%	32.0%	33.3%	2.8	1.15					
		233	ガウンテクニック	14.7%	20.0%	41.3%	24.0%	2.7	0.99					
		234	清潔区域・非清潔区域の確保	24.0%	21.3%	30.7%	24.0%	2.5	1.11					
		235	術中の無菌操作	56.0%	21.3%	17.3%	5.3%	1.7	0.94					
		236	術中体位の確保・安全安楽	65.3%	20.0%	10.7%	4.0%	1.5	0.84					
		237	術中モニタリング:バイタルサインズ、心電図モニター、IN/OUTバランス(ガーゼカウントを含む)など	60.0%	22.7%	16.0%	1.3%	1.6	0.81					
		238	麻酔覚醒の促進	69.3%	14.7%	14.7%	1.3%	1.5	0.79					
		239	術後患者用ベッドの準備	30.7%	10.7%	42.7%	16.0%	2.4	1.09					
		240	術後患者に対するフィンカール・イクサミネーション	30.7%	16.0%	46.7%	6.7%	2.3	0.98					
		241	術後疼痛の緩和	12.0%	16.0%	60.0%	12.0%	2.7	0.83					
		242	術後合併症の予防	5.3%	13.3%	68.0%	13.3%	2.9	0.69					
	特殊治療	化学療法	243	使用薬剤の混合	76.0%	14.7%	8.0%	1.3%	1.3			0.69	1.4	0.81
			244	薬剤投与前・中・後の観察	53.3%	13.3%	28.0%	5.3%	1.9			1.01		
			245	有害反応の観察と緩和	56.0%	16.0%	18.7%	9.3%	1.8			1.05		
		放射線療法	246	放射線曝露防止	85.3%	6.7%	5.3%	2.7%	1.3			0.68		
247			外照射	92.0%	4.0%	2.7%	1.3%	1.1	0.50					
248			小線源治療	93.3%	4.0%	1.3%	1.3%	1.1	0.45					
249			有害反応の観察と緩和	78.7%	6.7%	9.3%	5.3%	1.4	0.87					
透析療法	250	透析療法	77.3%	10.7%	10.7%	1.3%	1.4	0.73						
感染予防技術	スタンダードプリコーション	251	石けんと流水による手洗い(日常的手洗い)	0.0%	1.3%	0.0%	98.7%	4.0	0.23	2.7	1.14			
		252	擦式消毒用アルコール製剤による手指消毒(衛生的手洗い)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4.0	0.00					
		253	个人防护用具(PPE)の装着と外し方(手袋、ガウン、エプロン、マスク、フェイスシールド、ゴーグル)	1.3%	6.7%	8.0%	84.0%	3.7	0.64					
	医療器材の取り扱い	254	洗浄	49.3%	24.0%	10.7%	16.0%	1.9	1.12					
		255	消毒	56.0%	22.7%	12.0%	9.3%	1.7	1.00					
		256	滅菌	72.0%	21.3%	5.3%	1.3%	1.4	0.65					
	無菌操作の基本と滅菌物の取り扱い	257	清潔区域の作り方	6.7%	61.3%	18.7%	13.3%	2.4	0.80					
		258	滅菌パックの開け方	0.0%	58.7%	17.3%	24.0%	2.7	0.85					
		259	消毒用綿球の取り扱い方	0.0%	60.0%	16.0%	24.0%	2.6	0.85					

		260	滅菌包みの開け方	0.0%	61.3%	13.3%	25.3%	2.6	0.86			
		261	滅菌手袋の装着・外し方	0.0%	58.7%	13.3%	28.0%	2.7	0.88			
	感染性廃棄物の取り扱い	262	感染性廃棄物の取り扱い	4.0%	12.0%	33.3%	50.7%	3.3	0.84			
	針刺し防止策	263	針刺し防止	20.0%	37.3%	21.3%	21.3%	2.4	1.04			
		264	針刺し後の対応	41.3%	29.3%	14.7%	14.7%	2.0	1.08			
安全管理の技術	チューブ類の事故防止	265	固定方法の工夫と維持	13.3%	30.7%	46.7%	9.3%	2.5	0.84	2.5	1.13	
		266	事故除去の予防	26.7%	20.0%	44.0%	9.3%	2.4	0.98			
		267	自己除去の予防	25.3%	20.0%	48.0%	6.7%	2.4	0.94			
		患者誤認防止	268	患者誤認防止	6.7%	8.0%	24.0%	61.3%	3.4	0.90		
	転倒・転落・外傷の予防	269	新生児・成人・高齢者	2.7%	2.7%	52.0%	42.7%	3.3	0.67			
		270	小児の抑制	46.7%	22.7%	20.0%	10.7%	1.9	1.05			
		療養環境の調整	271	療養環境の調整	4.0%	9.3%	33.3%	53.3%	3.4	0.82		
		ME機器使用時の事故防止	272	ME機器使用時の事故防止	81.3%	10.7%	6.7%	1.3%	1.3	0.65		
	災害発生時の対応	273	災害発生時の対応	53.3%	30.7%	13.3%	2.7%	1.7	0.81			
術安楽確保の技術	安楽な体位	274	ポジショニング	6.7%	10.7%	34.7%	48.0%	3.2	0.90	3.2	0.90	
	褥瘡法	275	冷褥法(氷枕、氷嚢、氷頭、アイスノン)	2.7%	10.7%	30.7%	56.0%	3.4	0.79			
		276	温褥法(湯たんぽ、温湿布、ホットパック)	1.3%	10.7%	34.7%	53.3%	3.4	0.74			
	リラクゼーション	277	リラクゼーション	10.7%	10.7%	40.0%	38.7%	3.1	0.96			
	疼痛緩和	278	疼痛緩和	13.3%	18.7%	45.3%	22.7%	2.8	0.95			
死の看とりの技術	臨終まぎわの行動	279	臨終まぎわの患者の身体的変化の観察・記述	73.3%	12.0%	6.7%	8.0%	1.5	0.94	1.4	0.96	
		280	家族や親しい人々が共に過ごす場の調整	72.0%	12.0%	10.7%	5.3%	1.5	0.89			
	死の診断とその後の対応	281	医師の死亡診断への同席	92.0%	1.3%	2.7%	4.0%	1.2	0.67			
		282	看護記録への記載	93.3%	0.0%	4.0%	2.7%	1.2	0.62			
		283	霊安室や出棺時の礼法	96.0%	0.0%	2.7%	1.3%	1.1	0.47			
	死後の身体変化の理解と必要な対応	284	治療処置・器具・機器の取り外しとその後の処置	96.0%	1.3%	1.3%	1.3%	1.1	0.43			
		285	エンゼルメイク(全身清拭、洗髪、髭剃り・爪切り、化粧等、着用する衣服、ケアへの参加・宗教上の配慮等)	94.7%	1.3%	2.7%	1.3%	1.1	0.48			
		286	感染防止・身体の汚染防止	90.7%	4.0%	4.0%	1.3%	1.2	0.55			
	看とりへの態度・姿勢	287	その人らしい生であるよう、患者の尊厳を心から願い・祈りつづけ、静かにみまもる	60.0%	5.3%	13.3%	21.3%	2.0	1.27			
		288	患者が語る死の話題に耳を傾け、傾聴することができる	58.7%	6.7%	13.3%	21.3%	2.0	1.26			
		289	自分自身の看護観・死生観が患者との出会いによって、どのような影響を受けたか、言語化できる	57.3%	5.3%	13.3%	24.0%	2.0	1.30			
290		病棟で開催されるデスカンファレンスに出席し、生と死について考えを深めることができる	73.6%	2.8%	9.7%	13.9%	1.6	1.13				

表6.看護実践力到達度評価 集計表

群	能力	番号	項目	平均値2.8未満の項目				平均値3.6以上の項目					
				回答人数の割合				項目		能力		群	
				1.達成できなかった	2.あまり達成できなかった	3.まあまあ達成できた	4.達成できた	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
I ヒューマンケアの基本に関する実践能力	1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	1	(1)身体的・心理的・社会的な特徴を理解できる。	0%	0%	48%	52%	3.5	0.50	3.5	0.55	3.5	0.56
		2	(2)ライフサイクルと発達課題について理解できる(説明できる)。	0%	4%	51%	45%	3.4	0.57				
		3	(3)健康レベルの連続性と生活習慣の関連について説明できる。	0%	7%	52%	41%	3.3	0.60				
		4	(4)発達段階・文化・地域の背景を考慮して健康について説明できる。	0%	5%	59%	36%	3.3	0.57				
		5	(5)価値観や意思を尊重した行動ができる。	0%	0%	24%	76%	3.8	0.43				
		6	(6)守秘義務を理解し、意思決定を尊重した態度をとることができる。	0%	0%	20%	80%	3.8	0.40				
	2)実施する看護について説明し同意を得る能力	7	(1)理解力・意向・意志に合わせた説明をすることができる。	0%	1%	39%	60%	3.6	0.52	3.6	0.53		
		8	(2)実施にあたり、同意・納得・意志決定等を支援できる。	0%	3%	33%	64%	3.6	0.54				
	3)援助的関係を形成する能力	9	(1)自己の関わり傾向や課題を把握できる。	0%	0%	37%	63%	3.6	0.49	3.5	0.59		
		10	(2)自己の関わりに対する、言語的・非言語的反応を捉えることができる。	1%	1%	49%	48%	3.4	0.60				
		11	(3)励ましの心を持ち、共感的・支持的な態度で関わる中で、生きる力を引き出す援助的関係を築くことができる。	0%	3%	40%	57%	3.5	0.55				
		12	(4)対象集団の健康を導くために、当事者たちとパートナーシップを形成することができる。	3%	4%	49%	44%	3.3	0.69				
II 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	4)根拠に基づいた看護を提供する能力	13	(1)看護現象を文献や研究成果に基づいて、その重要性を理解し、活用できる。	0%	4%	59%	37%	3.3	0.55	3.0	0.72	3.2	0.66
		14	(2)看護実践における活用内容を理論や先行研究にあてはめて、新たな看護に活用できる。	1%	21%	60%	17%	2.9	0.66				
		15	(3)疫学・保健統計の視点で、情報を探索し、活用できる。	5%	27%	48%	20%	2.8	0.81				
	5)計画的に看護を実践する能力	16	(1)理論に基づき、看護の対象となる人々の情報を把握し、全人的視点でアセスメントができる。	0%	4%	63%	33%	3.3	0.54	3.4	0.58		
		17	(2)患者の特性や情報への深い理解と洞察に基づく智慧を発揮し、個別的な看護計画を立案できる。	0%	4%	57%	39%	3.3	0.56				
		18	(3)対象者の状況に合わせた、危険性を考慮した安全な看護を、指導の下に実施できる。	0%	3%	43%	55%	3.5	0.55				
		19	(4)実施したケアを、患者の反応と目標達成の観点から評価できる。	0%	4%	52%	44%	3.4	0.57				
		20	(5)法的意義を踏まえて、適切に記録できる。	0%	8%	41%	51%	3.4	0.64				
	6)健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力	21	(1)看護に必要な人体の構造と機能、疾病、病態、治療について説明できる。	1%	13%	63%	23%	3.1	0.64	3.1	0.64		
		22	(2)疾病がもたらす機能障害について説明できる。	1%	15%	60%	24%	3.1	0.66				
		23	(3)正常な生体反応と疾病をふまえたフィジカルアセスメントの方法について説明できる。	1%	13%	68%	17%	3.0	0.60				
		24	(4)身体的な健康状態を査定できる。	1%	15%	64%	20%	3.0	0.64				
		25	(5)情緒の発達、言語や認知、感情、性格、気質、精神状態を査定できる。	3%	15%	56%	27%	3.1	0.72				
		26	(6)形態的な成長と機能的な発達に応じて、指導の下で身体的心理的なアセスメントができる。	0%	5%	60%	35%	3.3	0.56				
	7)個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力	27	(1)発達段階に応じた生活背景、生活状態、生活リズム等と健康状態との関連を査定できる。	0%	5%	59%	36%	3.3	0.57	3.1	0.65		
		28	(2)家族が遭遇する様々な状況(付き添い、家族員への影響、経済状況、家族の健康状態)を捉えて、支援の必要性を査定できる。	1%	5%	61%	32%	3.2	0.61				
		29	(3)個人の健康障害が家族生活に及ぼす影響を捉えて、支援の必要性を査定できる。	1%	37%	59%	3%	2.7	0.60				
	8)地域の特性と健康問題を査定(Assessment)する能力	30	(1)地域の特性(地域の生活・文化・環境・社会経済構造等)、地域の健康指標、保健医療制度をふまえて、地域ケアニーズを捉える方法を説明できる。	0%	24%	52%	24%	3.0	0.70	3.0	0.70		
9)看護援助技術を適切に実施する能力	31	(1)発達段階に応じて自立や安全・安楽を考慮した日常生活援助技術を、指導のもとで実施できる。	0%	5%	49%	45%	3.4	0.59	3.3	0.60			
	32	(2)日常生活行動の維持・促進へ向けて、前向きに生きるための力を引き出す技術を理解し、指導のもとで実施できる。	0%	4%	51%	45%	3.4	0.57					
	33	(3)生活環境の調整へ向けた、社会制度の活用や多職種との連携・調整を理解し、指導のもとで実施できる。	0%	11%	56%	33%	3.2	0.63					
	34	(1)ヘルスプロモーションやプライマリーヘルスケアの考え方に基づいた、第一次予防、第二次予防、第三次予防の説明ができる。	1%	8%	56%	35%	3.2	0.65	3.1	0.60	3.0	0.73	
	35	(2)健康で快適・安楽な妊娠・出産・育児のための援助方法について説明できる。	0%	13%	63%	24%	3.1	0.61					
	36	(3)母親役割や父親役割を獲得するために、必要な看護役割について説明できる。	0%	17%	51%	32%	3.1	0.69					
	37	(4)新生児期、乳幼児期、学童期、思春期における発達課題と特徴をふまえて、健康の保持増進及び疾病予防のための看護援助方法について説明できる。	0%	12%	69%	19%	3.1	0.55					

Ⅲ 特定の健康課題に対応する実践能力	10)健康の保持増進と疾病を予防する能力	38	(5)成人期の発達課題の特徴と生活及び健康課題について理解し、健康の保持増進及び疾病予防のために必要な生涯学習に対する看護援助方法について説明できる。	0%	8%	73%	19%	3.1	0.51		
		39	(6)人生経験によって培われた成熟した自己を含めた高齢者の統合能力を理解し、社会サービスをふまえた看護援助方法について説明できる。	0%	11%	65%	24%	3.1	0.58		
		40	(7)地域における集団の健康課題に応じた健康の保持増進及び疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。	0%	8%	68%	24%	3.2	0.55		
		41	(8)地域の健康課題解決へ向けた国や自治体の組織的取り組みを説明できる。	1%	17%	57%	24%	3.0	0.69		
		42	(9)地域保健活動を実施する際に必要な態度・マナーを身に付けた上で、個人・家族・地域の特性に即した看護援助方法について説明できる。	0%	9%	61%	29%	3.2	0.59		
	11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	43	(1)急性状態にある患者の疾病や病態・治療・回復過程について、発達課題、基本的ニーズ、生活習慣、自己概念をふまえて査定できる。	0%	8%	69%	23%	3.1	0.54	3.1	0.73
		44	(2)患者と家族の気持ちを引き出し、回復過程における全人的苦痛を緩和する看護を実践できる。	1%	5%	59%	35%	3.3	0.62		
		45	(3)心身の回復過程に応じて、日常生活活動、代替機能の獲得や、セルフコントロールを促すリハビリテーション看護を実践できる。	1%	5%	56%	37%	3.3	0.63		
		46	(4)放射線化学療法に伴う有害事象を緩和しながら、生命力を引き出す看護援助方法を実践できる。	19%	25%	49%	7%	2.4	0.87		
		47	(5)救急外来における医療の特徴と看護師の役割について説明できる。	1%	8%	65%	25%	3.1	0.61		
	12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	48	(1)慢性疾患を抱える患者・家族の生活の特徴を説明できる。	0%	8%	49%	43%	3.3	0.63	3.2	0.63
		49	(2)慢性的な健康課題を抱える患者・家族について、疾病とその治療法及び障害、自己管理、症状マネジメントについて、指導の下で査定できる。	0%	7%	63%	31%	3.2	0.57		
		50	(3)疾病や障害とともに生きるために、生活の再構築やセルフケアを促す看護援助を指導の下で実施できる。	0%	7%	56%	37%	3.3	0.59		
		51	(4)疾病管理の移行に伴う退院指導の継続看護を指導の下で実施できる。	1%	9%	61%	28%	3.2	0.64		
52		(5)患者・家族の知見を広げ、ソーシャルサポートを指導の下で提案できる。	1%	20%	59%	20%	3.0	0.68			
13)終末期にある人々を援助する能力	53	(1)終末期にある患者の症状緩和、疼痛コントロール、緩和ケアにかかわる看護援助方法について説明できる。	12%	28%	41%	19%	2.7	0.92	2.6	0.93	
	54	(2)終末期にある患者の希望や意思を支え、その人の価値観・生き方を尊重した看護を指導の下で実施できる。	15%	25%	37%	23%	2.7	0.99			
	55	(3)看取りをする家族の体験について理解し、家族の個別性を重視した看護援助方法について説明できる。	13%	31%	37%	19%	2.6	0.94			
	56	(4)病院や施設、在宅での看取りのための支援体制づくりについて説明できる。	12%	32%	43%	13%	2.6	0.87			
Ⅳ ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	57	(1)保健医療福祉における制度や法律をふまえ、看護専門職としての機能と役割について説明できる。	0%	20%	61%	19%	3.0	0.63	3.0	0.65
		58	(2)看護実践をよりよいものに変革するための看護管理の機能や役割について説明できる。	1%	16%	57%	25%	3.1	0.68		
	15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	59	(1)地域ケアにおける支援システム及び支援方法について理解できる。	0%	9%	59%	32%	3.2	0.61	3.2	0.64
		60	(2)被災者及び被災集団への災害看護活動の在り方について理解できる。	1%	12%	59%	28%	3.1	0.66		
	16)安全なケア環境を提供する能力	61	(1)地域や医療機関における医療安全対策への取り組みと看護の活動・役割について説明できる。	0%	8%	67%	25%	3.2	0.55	3.3	0.60
		62	(2)感染予防のための標準予防策(Standard precaution)について理解し、実施することができる。	0%	4%	44%	52%	3.5	0.58		
		63	(3)医療事故の予防と発生時対応について説明できる。	1%	8%	61%	29%	3.2	0.63		
	17)保健医療福祉における協働と連携をする能力	64	(1)保健医療福祉チームにおける協働・連携及び看護の役割について説明できる。	1%	4%	65%	29%	3.2	0.58	3.2	0.63
		65	(2)継続看護、退院支援、退院調整など、地域の関連機関と協働しながら、指導の下で看護を実施できる。	1%	12%	56%	31%	3.2	0.68		
		66	(3)病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、学校などの連携の必要性について説明できる。	0%	8%	52%	40%	3.3	0.62		
18)社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	67	(1)社会と疾病構造の変化をもとに、看護の求められる役割について説明できる。	1%	8%	51%	40%	3.3	0.67	3.0	0.78	
	68	(2)世界の看護の発展を理解し、今後の看護の方向性について考察することができる。	1%	25%	45%	28%	3.0	0.77			
	69	(3)世界が直面する保健医療の課題と看護の役割について説明することができる。	4%	30%	46%	20%	2.8	0.80			
	70	(4)国・地域・文化・価値観および健康レベルの多様性に応じた看護の重要性を説明できる。	4%	19%	47%	31%	3.0	0.81			
Ⅴ 鑽し続ける専門職者としての基本能力	19)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	71	(1)主体的に自己の看護を振り返り、自己の課題を見出すことができる。	0%	0%	40%	60%	3.6	0.49	3.5	0.55
		72	(2)生命の尊厳性を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。	0%	3%	51%	47%	3.4	0.55		
		73	(3)専門職としての成長に必要な批判的分析力、論理的思考力を活用しながら、自らの看護観を形成することができる。	0%	5%	56%	39%	3.3	0.58		
	20)看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力	74	(1)看護の専門性を高めるために、自己及び他者の価値や可能性を見出す姿勢を持つことができる。	0%	0%	44%	56%	3.6	0.50	3.6	0.50